

とやま新幹線延伸戦略

令和2年3月

富山県

目 次

第1章 戦略策定にあたって	1
1. 戦略策定の背景・趣旨	1
(1) 戦略策定の背景	
(2) 戦略策定の趣旨	
2. 戦略の基本的な考え方	3
(1) 戦略策定のポイント	
(2) 戦略の柱（基本戦略と方向性）	
(3) 戦略の推進体制	
第2章 基本戦略の概要（具体的な施策の方向性・展開）	5
1. 施策の体系	
2. 北陸新幹線の整備促進について	
3. 主な施策の内容	
I 基本戦略1 魅力あるまちづくり・地域づくり	7
1 新幹線駅とその周辺地域の活性化、アクセスの向上	
2 地域の魅力を活かしたまちづくり・賑わいづくり	
3 富山のブランドカアップ	
II 基本戦略2 ものづくり産業の拠点化	11
1 第4次産業革命への対応と新たな成長産業の育成	
2 販路開拓、ものづくり技術の発信	
3 魅力的な企業立地環境の整備	
4 成長分野の企業、本社機能・研究開発拠点の誘致	
III 基本戦略3 選ばれ続ける観光地づくり	15
1 戦略的な観光地域づくり	
2 広域観光の拠点化	
3 富山らしい魅力創出	
4 戦略的なプロモーション	
5 国際観光の推進	
IV 基本戦略4 移住・定住の促進、応援人口の創出・拡大	19
1 移住体験機会の拡大、移住者受入体制の強化	
2 「くらしたい国、富山」の魅力発信・相談体制の充実	
3 応援人口（関係人口）の創出に向けた都市との交流促進	
4 コンベンション等の誘致促進	
第3章 参考資料	23
1. 北陸新幹線延伸に関する調査の概要	
2. 北陸新幹線の富山開業について	
3. 北陸新幹線敦賀・大阪延伸の概要	
4. 北陸新幹線のあゆみ	
5. 「新幹線延伸戦略検討委員会」委員名簿	
6. 策定の経緯	

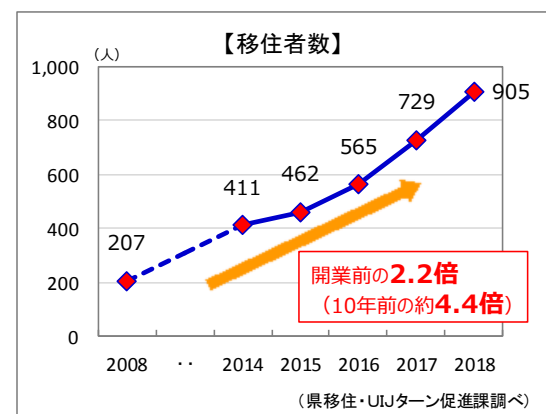
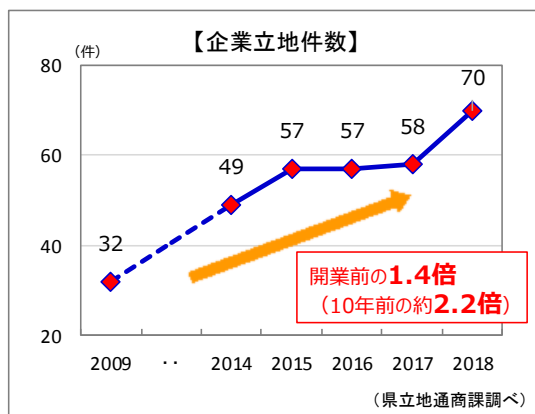
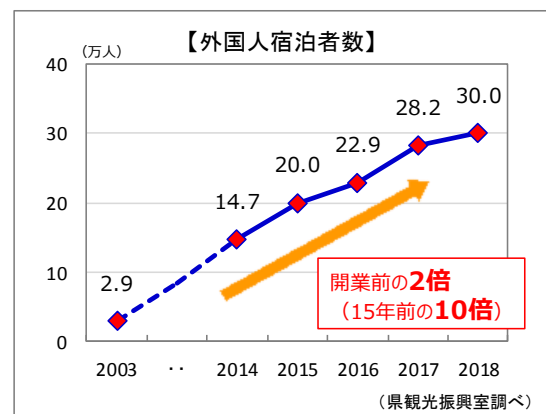
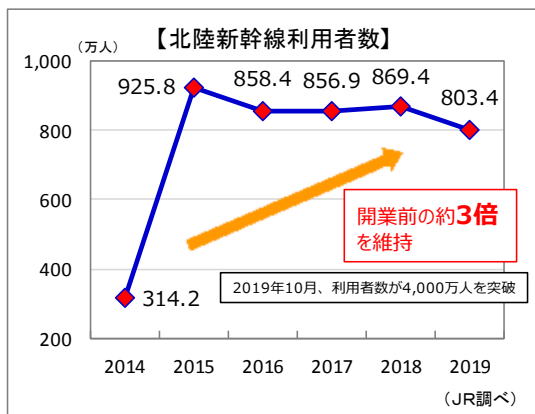
1. 戦略策定の背景・趣旨

(1) 戦略策定の背景

(北陸新幹線の開業)

2015（平成27）年3月、県民の半世紀にわたる悲願だった北陸新幹線（長野・金沢間）が開業しました。乗車人員は、開業前の3倍近くの高い水準が続き、開業から約4年半で4,000万人を超えるなど、順調に推移しています。新幹線の開業により、県内観光地の入込数や宿泊者数も増加し、首都圏等からの本社機能の一部や研究開発拠点の移転、大型商業施設や物流拠点の進出など、企業立地も進んでいます。また、Uターン率のさらなる向上や、県・市町村の相談窓口などを通して移住された方々が、若い世代を中心に増加するなど、様々な効果が現れています。

これは、北陸新幹線の開業を見据え、2012（平成24）年5月に「新幹線戦略とやま県民会議」を設置し、官民一体となって、観光振興、交流人口の拡大や魅力あるまちづくりなどに取り組んだ成果であり、今後も、この新幹線効果を持続・深化していくことが重要です。



(北陸新幹線の整備促進)

東日本大震災を契機に、災害時における交通機能の重要性が再認識され、多重系の輸送体系の確立による災害に強い強靱な国土づくりがこれまで以上に求められています。北陸新幹線は、近い将来に発生が予想される南海トラフ地震等の大規模地震の影響を受けにくい位置にあり、太平洋側の基幹交通に対する代替補完ルートとしての機能が期待されます。

一昨年2月の大雪の際には、北陸新幹線はほぼ通常どおりの安定運行が図られるなど、雪害等に強く、国土強靱化に資することが証明されました。また、昨年10月の台風19号に際しては、北陸新幹線において一部区間の運休や運行本数の減少など大きな被害が発生した結果、ビジネスや観光などの面で、沿線地域のみならず日本全体に大きな影響を及ぼすなど、その重要性が改めて明らかになったところです。

このように、東海道新幹線の代替補完機能を有し、広域的な鉄道ネットワークとして重要な機能を果たす北陸新幹線に求められる役割はこれまで以上に大きくなっており、引き続き、金沢以西の全線を早期に整備する必要があります。

(北陸新幹線延伸の概要)

北陸新幹線の敦賀開業により、富山・新大阪間の所要時間は約30分短縮（現行：最速3時間⇒敦賀開業後：約2時間30分）され、その後の大阪延伸により、約80分短縮（新大阪開業後：約1時間40分）されます。さらに、富山・名古屋間の所要時間は、敦賀開業により約50分短縮（現行：最速2時間55分⇒敦賀開業後：約2時間10分）されるなど、関西圏・中京圏とのアクセスが格段に向上します。

また、北陸新幹線の大阪までの延伸により、首都圏と関西圏を結ぶ現在の太平洋側の「ゴールデンルート」に加えて、北陸経由で首都圏と関西圏を結ぶ「新ゴールデンルート」が形成されます。この新幹線ネットワークの環状化により、首都圏や中京圏、関西圏と北陸地域とが人口規模6,500万人の一大交流・経済圏を形成する「大ゴールデン回廊」が創出され、富山県がその重要な一角を担うこととなります。

(近年の社会情勢の変化)

訪日外国人旅行者数は、2019年に3,188万人となり、7年連続で過去最高を更新したほか、訪日外国人旅行消費額や延べ宿泊者数も年々増加するなど、国内のインバウンド需要は近年急速に拡大しています。今後も、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会や2025年の大阪・関西万博など、国際的なイベントの開催が予定されています。さらに、地方創生の深化による地方への人の流れの強化や、SDGsのさらなる推進、Society5.0の実現に向けた情報通信技術の発展、リニア中央新幹線の開業（品川・名古屋間：2027年、名古屋・大阪間：2045年から最大8年間前倒し）による三大都市圏の一体化など、社会情勢も大きく変化しています。

(2) 戦略策定の趣旨

こうした環境変化の中、北陸新幹線の延伸は、富山県が新時代に飛躍する大きなチャンスであり、これを逃がすことなく、観光誘客や移住・定住の促進、産業振興など、官民一体となった取組みをさらに進めていくことが必要です。

このため、昨年8月、地方創生施策のさらなる深化を議論する「とやま未来創造県民会議」のもとに、経済界、観光・交通関係者や行政、有識者等からなる「新幹線延伸戦略検討委員会」を設置し、北陸新幹線の延伸効果を最大限に引き出し、持続的にその効果を県内各地に広く波及・拡大させていくため、今後の取組みについて総合的に検討を重ね、このたび、「とやま新幹線延伸戦略」をとりまとめました。

今後、2022（令和4）年度末に予定されている敦賀開業、さらには大阪までの延伸を展望し、この戦略に基づいた各分野の取組みを総合的かつ戦略的に展開していくことにより、富山県の新たな飛躍、発展につなげていきます。

2. 戦略の基本的な考え方

(1) 戦略策定のポイント

「とやま新幹線延伸戦略」の策定にあたっては、以下のポイントに重点を置いています。

① 県民の知恵とパワーを結集

昨年8月に設置した「新幹線延伸戦略検討委員会」においては、県内の市町村や経済界、関係団体など各分野の代表や有識者等に議論いただくとともに、県政世論調査やアンケート調査により、今後の取組みについて、県民の皆さんや観光、交通、経済等の県内企業や団体の方々にもご意見をいただくなど、戦略策定にあたっては、まさに、県民の知恵とパワーを結集しました。

② 富山県の「良さ」「強み」を最大限活かす

富山県には、勤勉で進取の気性に富む県民性、先人がつくりあげた産業基盤、雄大な立山連峰や、ここに源を発する急峻な河川、「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が承認された富山湾など豊かで美しい自然環境、そこで育まれた良質な水と新鮮でおいしい食材、長年にわたって受け継がれてきた歴史・文化、全国トップクラスの生活環境や教育環境など、国内外に誇ることができる様々な魅力があります。また、環日本海・アジア地域の拠点となり得る地理的優位性、充実した陸・海・空の交通・物流基盤やネットワークなど、大きなポテンシャルを有しています。こうした富山県の「良さ」、「強み」を最大限に発揮し、さらなる飛躍・発展を目指します。

③ 県全体のバランスがとれた発展を目指す

戦略策定に向けて設置した「新幹線延伸戦略検討委員会」では、市町村長の代表にメンバーになってもらい、県内の各地域の課題、特色や強みなども十分考慮しながら、具体的な施策等について議論いただきました。今後も、具体的な施策展開等の面で市町村との連携強化を図りながら、富山県全体でのバランスがとれた発展を目指します。

④ 連携と協働による相乗効果で元気を創造

富山県ではこれまでも、市町村をはじめ、県民の皆さんや県内の各種団体・企業の方々と連携を図りながら、様々な取組みを推進してきました。こうして培ってきたノウハウや成果を十分活かし、幅広い分野において、県内における地域間連携・地域の拠点のネットワーク化や官民連携はもとより、近隣県との連携強化なども図りながら、「掛け算効果」で地域全体の総合力を最大限に発揮することで、産業や地域を活性化し、「元気とやま」の創造を進めます。

⑤ 総合計画や他の計画等との整合性を確保

2018（平成30）年に、本県を取り巻く社会経済情勢の変化や新たな重要課題に的確に対応するため、2026（令和8）年度を目標年次とした新しい総合計画を策定したところであり、「とやま新幹線延伸戦略」では、県づくりの中長期的指針である総合計画に沿って、北陸新幹線の敦賀延伸を見据え、各種施策をさらに深化させま

す。また、「第2期とやま未来創生戦略」においても、「北陸新幹線敦賀延伸の効果を最大限に発揮するための取組み推進」を分野横断的な観点として反映させ、施策のさらなる充実・強化を図ります。

(2) 戦略の柱（基本戦略と方向性）

3年後に迫った敦賀開業に向けて、北陸新幹線の延伸効果を最大限に高め、その効果を県内各地に広く波及・拡大し、持続的に発揮させていくため、「①魅力あるまちづくり・地域づくり」、「②ものづくり産業の拠点化」、「③選ばれ続ける観光地づくり」、「④移住・定住の促進、応援人口の創出・拡大」の4つの柱を基本戦略に掲げ、今後取り組むべき具体的な施策を提示しています。

○基本戦略1 魅力あるまちづくり・地域づくり

富山県の玄関口である3つの新幹線駅を核とした広域交流を促進するとともに、地域の個性を活かした魅力的な、賑わいのあるまちづくりを推進します。

○基本戦略2 ものづくり産業の拠点化

県内企業の生産性向上や競争力強化、富山の強みを活かした成長産業の育成に取り組むとともに、魅力的な立地環境をPRし企業誘致を推進するなど、多様なものづくり産業の集積を図ります。

○基本戦略3 選ばれ続ける観光地づくり

富山ならではの魅力ある観光資源をさらに磨き上げ、戦略的に発信していくことにより、国内外の旅行者が繰り返し訪れ滞在する「選ばれ続ける観光地」づくりを進めます。

○基本戦略4 移住・定住の促進、応援人口の創出・拡大

将来的な移住に向けた裾野を拡大するため、大都市圏との継続的な交流を通じ、様々な形で富山を応援する「応援人口（関係人口）」の創出・拡大を図るとともに、移住・U I J ターンの促進のための取組みを展開します。

(3) 戦略の推進体制

① 県民、民間団体・事業者、市町村等との連携・協働

富山開業時に官民挙げて取り組んできた経緯も踏まえ、敦賀開業に向けた戦略の取組みにおいても、県民、経済界、関係団体、行政など、幅広い分野の関係者が有する意欲やアイデアを結集させ、県民総参加での連携・協働を目指します。

② 広域連携

北陸新幹線の敦賀開業により、北陸三県が新幹線で結ばれます。また、関西圏や中京圏とのアクセス向上により、時間距離の短縮だけでなく、心理的にも距離が近くなることが期待されることから、近隣県や北陸新幹線沿線県等との連携をより一層強化し、延伸効果の発現に向けて取り組んでいきます。

第2章 基本戦略の概要（具体的な施策の方向性・展開）

1. 施策の体系

○北陸新幹線の整備促進

- ◎令和12年度末の北海道新幹線・札幌開業頃までの敦賀・大阪間の早期全線開業
- ◎敦賀駅等における乗換利便性の確保など、関西・中京圏とのアクセス向上

基本戦略1 魅力あるまちづくり・地域づくり

1 新幹線駅とその周辺地域の活性化、アクセスの向上

- (1) 新幹線駅周辺の整備、賑わい創出
- (2) 広域交通ネットワークの充実
- (3) 新幹線駅の利用促進

2 地域の魅力を活かしたまちづくり・賑わいづくり

- (1) 地域の魅力のブラッシュアップ
- (2) 中心市街地の賑わい創出
- (3) 豊かで魅力ある中山間地域の実現
- (4) 多文化共生の地域づくり

3 富山のブランドカアップ

- (1) 戦略的情報発信によるブランド力の強化
- (2) 「富山ならではの」製品のブランド化推進
- (3) 豊かな食の磨き上げ、「食のとやまブランド」の確立

基本戦略2 ものづくり産業の拠点化

1 第4次産業革命への対応と新たな成長産業の育成

- (1) IoT、AI、ロボットの導入など新たなものづくり基盤の強化
- (2) 最先端ものづくり産業の育成

2 販路開拓、ものづくり技術の発信

- (1) 販路開拓への支援
- (2) ものづくり技術の情報発信の強化
- (3) デザインによる高付加価値化

3 魅力的な企業立地環境の整備

- (1) 陸・海・空の交通・物流ネットワークの整備
- (2) 企業支援体制の整備

4 成長分野の企業、本社機能・研究開発拠点の誘致

- (1) 積極的な企業誘致活動の展開
- (2) 立地企業に対する総合的な支援

基本戦略3 選ばれ続ける観光地づくり ー海のあるスイスを目指してー

1 戦略的な観光地域づくり

- (1) 戦略的な観光地域づくりの体制整備（日本版DMO）
- (2) グローバル化に対応した次世代の観光を担う人づくり
- (3) 地域の観光を支える人づくり
- (4) 観光の担い手としての事業者・県民の意識醸成

2 広域観光の拠点化

- (1) 広域観光ハブ（交通結節点）を活かした拠点整備
- (2) 新幹線駅・空港と観光地を結ぶ二次交通の整備・利便性向上
- (3) 広域観光の拠点としての賑わい創出・魅力向上

3 富山らしい魅力創出

- (1) 「立山黒部」の世界ブランド化に向けた取組みの推進
- (2) 「世界で最も美しい富山湾」の活用と保全
- (3) 産業観光、ロケ地、スポーツ等多様なツーリズムの展開

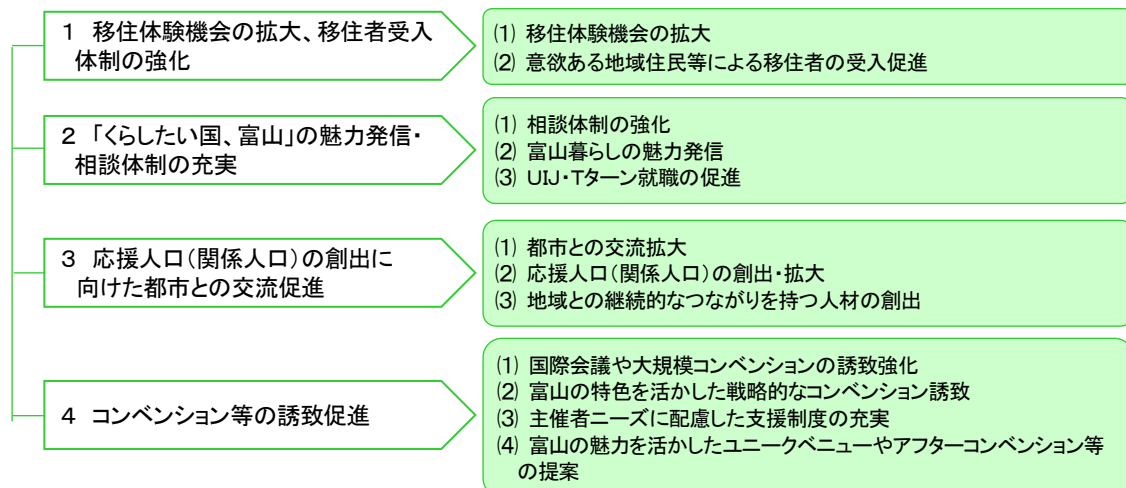
4 戦略的なプロモーション

- (1) ターゲットの特性に応じた効果的な情報発信
- (2) 交通事業者、大手旅行会社、近隣自治体等と連携したプロモーション
- (3) 映画等の誘致や多様なメディアの活用・連携

5 国際観光の推進

- (1) 広域観光周遊ルートの形成促進
- (2) 外国人旅行者の受入環境の整備
- (3) 欧米豪など新規市場からの誘客強化
- (4) 東アジア・東南アジアからのリピーター拡大

基本戦略4 移住・定住の促進、応援人口の創出・拡大



2. 北陸新幹線の整備促進について

北陸新幹線は、ビジネスや観光などにおいて沿線地域に顕著な開業効果をもたらすなど投資効果が高いほか、大規模災害時等における東海道新幹線の代替補完機能を有する高速交通体系の中軸として、災害に強い強靱な国土づくりや日本海国土軸の形成に必要な不可欠なものであり、大阪までの早期全線整備は、北陸のみならず、関西をはじめ日本全体の発展に大きな意義があります。

これまでも、北陸新幹線の沿線都府県で構成する北陸新幹線建設促進同盟会を中心に、北信越五県議会協議会、北陸経済連合会、関西経済連合会及び関西広域連合の5団体合同で、政府・与党に対し、金沢・敦賀間の2022（令和4）年度末までの確実な開業はもとより、2030（令和12）年度末の北海道新幹線・札幌開業頃までの敦賀・大阪間の全線開業に向けた必要財源の確保、例えば貸付料の算定期間の延長等の検討や国費の増額のほか、並行在来線の経営安定対策の充実などの実現について、強く要請してきたところです。

また、北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けては、富山・金沢・福井・京都・神戸・大津・大阪の7商工会議所会頭による「北陸・関西連携会議」における共同提言の実施や、JR西日本主催による、北陸・関西の自治体や経済団体が交流促進を図る「関西・北陸交流会」の開催のほか、2019（令和元）年6月には、大阪府・市や関西の経済団体による「北陸新幹線早期全線開業実現大阪協議会」が設立されるなど、官民を挙げた取組みが進められており、関西圏における機運も一段と高まっています。

今後とも、北陸・関西の沿線府県や経済界などと連携しながら、政府等関係各方面に対し、必要な整備財源を確保して、大阪までの切れ目ない早期着工、早期全線開業が実現されるよう強力に働きかけてまいります。

さらに、関西・中京圏とのアクセス向上を図るため、敦賀駅等における乗換利便性を確保するとともに、在来線特急の運行本数の維持・拡大などについて、引き続き、関係機関に対し強く要望してまいります。

3. 主な施策の内容

※は、敦賀開業（令和4年度末）前後、若しくはそれ以降に完了見込みの中長期的な取組み

基本戦略1 魅力あるまちづくり・地域づくり

（取組み方向）

富山県の玄関口である3つの新幹線駅を核とした広域交流を促進するとともに、地域の個性を活かした魅力的な、賑わいのあるまちづくりを推進します。

（重点的取組み）

1 新幹線駅とその周辺地域の活性化、アクセスの向上

本県の玄関口であるとともに、県内の主要な観光地、さらには能登地方や飛騨地方へのゲートウェイとなるため、魅力あふれる駅周辺地域の整備やアクセスの向上を図ります。

主な取組み

（1）新幹線駅周辺の整備、賑わい創出

- ・ 富山駅周辺南北一体化を図る連続立体交差事業の推進※
- ・ 駅前広場や都市計画道路などの基盤整備とあわせた富山駅周辺地区の一体的なまちづくりの推進※
（富山駅周辺地区土地区画整理事業）
- ・ 富山駅から徒歩圏内に、武道競技や室内競技だけでなく、コンサートなどのイベントを開催するなど賑わい創出・地域活性化に寄与する武道館機能を有する多目的施設を新たに整備※（令和5年夏頃の開館を目指す）
- ・ 高岡テクノドーム（富山県産業創造センター）の展示、集客及び交流に係る施設機能の拡充※（令和5年春頃の開館を目指す）
〔新たなコンベンションニーズや5Gなど最先端技術に対応した展示機能や、若者や親子連れが集い交流できる機能を備えた、魅力ある別館の整備〕
- ・ 主要地方道高岡環状線や主要地方道黒部宇奈月線、都市計画道路牛島蛭川線など、新幹線駅へのアクセスが向上する道路の整備促進※



富山駅北口駅前広場の完成イメージ



高岡テクノドーム

（2）広域交通ネットワークの充実

- ・ 新幹線駅や拠点駅、空港へのアクセスの充実
〔黒部宇奈月温泉駅からあいの風とやま鉄道駅（魚津駅、黒部駅、入善駅、泊駅等）等への市町による予約式タクシーやバスの運行など〕
- ・ 県内観光地をスムーズに周遊できる広域的な公共交通サービスの整備・充実
〔県内公共交通機関が共同して提供する、ICTを活用した共通切符の導入を検討など〕
- ・ 豊富な鉄軌道網を活用した地域公共交通の利用促進



あいの風とやま鉄道

- ・ 持続可能で安全・安心な地域公共交通の基盤づくりの推進
- ・ L R T化の検討も含めた城端線・氷見線活性化方策の検討
- ・ 県内全域の路線バス等を網羅した「とやまロケーションシステム」の利用促進や、全国相互利用可能な交通系 I Cカードの導入促進など、地域公共交通の利便性向上



(3) 新幹線駅の利用促進

- ・ 地元市町村等が行う駅利用促進に向けた取組みや沿線地域での P R 事業、地域活性化事業等への支援
- ・ 新幹線駅における観光情報提供、物販機能の強化
- ・ ダイヤ改正に伴う利便性向上に向けた J R への働きかけ

2 地域の魅力を活かしたまちづくり・賑わいづくり

自然や歴史・文化、優れた水辺空間などの地域資源や地域の魅力を活かした、個性的で美しいまちづくり、地域の特色を活かした賑わい創出や魅力向上に取り組めます。

主な取組み

(1) 地域の魅力のブラッシュアップ

- ・ 自然や歴史・文化など地域資源や地域の魅力を発掘し、地域の特色・強みを活かした持続可能で活力あるまちづくりを推進
- ・ 美しい自然や田園景観の保全、歴史や文化を活かしたまち並みづくりなど、魅力的な景観づくりを推進
- ・ 「立山・黒部」や「近世高岡の文化遺産群」など、世界文化遺産登録への取組み等を通じた地域の魅力の発掘・再発見
- ・ 大伴家持や越中万葉の魅力を県内外に発信するなど、高志の国文学館を拠点とし、高岡万葉歴史館とも連携したふるさと文学の振興
- ・ 世界に誇ることのできる質の高い文化の創造・発信と芸術文化を通じた海外との交流

〔世界最先端の演劇祭「利賀サマー・シーズン」や、世界の子どもたちが参加する「とやま世界こども演劇祭」、「国際工芸アワードとやま」の開催など〕

- ・ 新川文化ホール敷地内での子どもが楽しめる屋内型レクリエーション施設整備※
- ・ ファッションイベントやeスポーツイベントの開催支援等を通じた、若者などに魅力的な地域づくりの推進

- ・ 豊かな自然を活かしたうるおいのある水辺空間の創出

〔富岩運河環水公園での四季折々の誘客力のあるイベントの開催、富山県美術館での魅力的な展覧会やワークショップの開催、「富岩水上ライン」の運航などによる賑わい創出〕

- ・ 無料Wi-Fiの整備やウォーキングサインの設置等、中央植物園のウェルカム態勢の向上



富岩運河環水公園・富山県美術館

(2) 中心市街地の賑わい創出

- ・ 市町村の中心市街地活性化基本計画等の事業実施に対する支援
- ・ 市街地再開発事業等による居住、商業、業務機能の集積や、学校、文化、福祉施設などの中心市街地への立地促進
 - 〔 富山市：中央通りD北地区※、高岡市：高岡駅前東地区 〕
- ・ 環境変化への対応や空き店舗・後継者問題等の課題解決に向けた商店街の新たな取組みに対する支援
- ・ 新たな賑わい拠点の創出など、若者や女性、移住者など様々な主体と連携した、まちなかエリア全体の活性化の促進



暮らし・にぎわい再生事業
(高岡駅前東地区)



商店街の空き店舗を
改装したシェアオフィス

(3) 豊かで魅力ある中山間地域の実現

- ・ 中山間地域における地域住民や応援人口（関係人口）による地域コミュニティの活性化
 - 〔 地域おこし協力隊のサポート体制の強化とネットワーク化の推進や、大学生等によるフィールドスタディの実施などによる地域住民と外部人材との交流推進など 〕
- ・ グリーンツーリズムの推進や特産品のブランド化などによる中山間地域の豊かな自然や地域資源のさらなる活用の促進

(4) 多文化共生の地域づくり

- ・ 海外からの留学生等の高度人材の受入れ拡大や県内企業における就職促進など、外国人材が活躍できる環境整備
- ・ 多言語による情報提供や相談体制の充実、日本語習得の支援など、外国人住民にも暮らしやすい多文化共生の地域づくりの推進

3 富山のブランドカアアップ

富山ならではの優れた産品や食の魅力などのブランド化に向けた取組みを強化し、富山の魅力をより積極的・戦略的に発信するとともに、自然、歴史、文化等の富山県の地域イメージの定着・向上につなげていきます。

主な取組み

(1) 戦略的情報発信によるブランド力の強化

- ・ 情報発信拠点「日本橋とやま館」における富山県の魅力の発信強化（物販、飲食、観光・定住・U I J ターン、交流・イベントなどの多彩な機能の活用）
 - 〔 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあわせ、訪日外国人や観戦客に対し、本県の伝統工芸や最先端技術、世界に誇る自然景観などの魅力を発信 〕



日本橋とやま館

- ・ 県広報課に「ブランド戦略推進班」を新設し、富山県の統一的なブランドイメージを確立し、効果的に県のイメージアップを推進
 - 〔豊かな自然や食、歴史、文化、高いものづくり技術、優れた伝統工芸品など〕
 - 〔本県の魅力を戦略的に情報発信〕
- ・ 「とやま大使」、「とやまファン倶楽部」、富山県出身首都圏若者ネットワーク「acoico（アコイコ）」等の人的ネットワークや県ホームページ、テレビ、SNS等の多様な広報媒体の活用、イベントへの出展等による、国内外に向けた富山県の魅力の継続的発信
- ・ 本県出身芸能人、スポーツ選手等のさらなる活用による情報発信
- ・ 観光、物産、移住・定住など富山県の魅力をより効果的に発信するため、関西圏における情報発信のあり方を検討

(2) 「富山ならではの」製品のブランド化推進

- ・ 「富山県推奨とやまブランド」や、その認定を目指す「明日のとやまブランド」により、県産品や県内事業者のブランド力の強化
- ・ 「幸のこわけ」、「技のこわけ」、「富のおもちかえり」など、デザインを活用した魅力ある商品開発の支援
- ・ デザイン性に優れたパッケージ・包装紙、伝統工芸品を用いた土産品や地域限定の特別感のある商品など、富山らしい魅力ある土産品の充実



越中富山 幸のこわけ



べつばら富山

(3) 豊かな食の磨き上げ、「食のとやまブランド」の確立

- ・ 「富山湾鮭」など、本県の豊かな海の幸・山の幸や郷土料理の魅力を磨き上げ、発信する取組みの推進
- ・ 富山の新鮮で多彩な食材や豊かで洗練された食文化のブランドイメージの向上、定着
 - 〔季節に応じた富山の食の魅力の発信、富山の食を〕
 - 〔味わうイベントの開催など〕
- ・ 首都圏等でのイベントや広報（CM、雑誌広告等）、販売店での試食宣伝や飲食店と連携したフェアなど、積極的なプロモーション活動の展開による富山米新品種「富富富（ふふふ）」のブランド確立
- ・ ブリ・シロエビ・ホタルイカ・県産ベニズワイガニ「高志の紅（アカ）ガニ」などの「富山のさかな」の一層のブランド化の推進
 - 〔「うまさ一番 富山のさかなキャンペーン」や、〕
 - 〔北陸新幹線での鮮魚輸送によるレストランフェア〕
 - 〔の開催などによる「富山のさかな」の魅力の発信〕
- ・ 年間を通して県産食材の供給を促進するため、食品バイヤーや料理人等への情報発信、食材活用の提案や商談会の開催等の取組みの推進



富山湾鮭



「富山のさかな」おもてなしフェア

基本戦略2 ものづくり産業の拠点化

(取組み方向)

県内企業の生産性向上や競争力強化、富山の強みを活かした成長産業の育成に取り組むとともに、魅力的な立地環境をPRし企業誘致を推進するなど、多様なものづくり産業の集積を図ります。

(重点的取組み)

1 第4次産業革命への対応と新たな成長産業の育成

IOTやAIなどの第4次産業革命による技術を活用し、労働生産性の向上や新たな付加価値の創出を図るとともに、本県の高いものづくり技術や産業集積を活かして、先端ものづくり等の分野において、新たな成長産業を育成します。

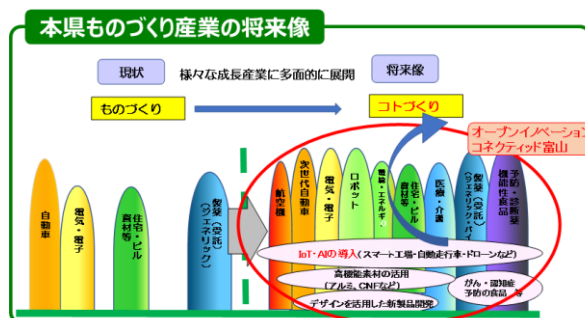
主な取組み

(1) IOT、AI、ロボットの導入など新たなものづくり基盤の強化

- 富山県IoT推進コンソーシアムによるIoT等の導入支援
 - IOT等の最新動向や導入メリットを知る機会の創出、IoT導入プランの策定や実証実験の実施に対する支援、企業交流による新たなネットワークづくりの場の創出
- IOT等指導者の県内企業への派遣などによる導入支援
- 県内企業のIoTを用いた自社内及び工場内・企業間のネットワーク化やAI、ロボットの導入による生産性向上を図るための設備投資に対する支援
- IOT等の先端技術を活用できる人材の育成・確保、学習機会の創出

(2) 最先端ものづくり産業の育成

- 「新・富山県ものづくり産業未来戦略」において、『とやま成長産業創造プロジェクト』に位置付けられている成長分野(*)のさらなる振興に向けた支援の充実
 - *①医薬・バイオ、②医薬工連携、③次世代自動車、④航空機、⑤ロボット、⑥環境・エネルギー、⑦ヘルスケア
- 「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムによる取組みを通じて、医薬品産業の振興や専門人材の育成・確保を推進



富山県IoT推進コンソーシアム
設立大会



創薬研究開発センター



サマースクールでの
バイオ医薬品実習の様子

- ・ 「とやまアルミコンソーシアム」による、アルミの特性を活かした研究開発プロジェクトや人材の育成を推進
- ・ 「とやまヘルスケアコンソーシアム」による、付加価値の高いヘルスケア製品の開発や事業化を支援
- ・ オープンイノベーションを推進するため、大学、県立試験研究機関・産業支援機関における推進体制の強化



富山県ものづくり研究開発センター

2 販路開拓、ものづくり技術の発信

新幹線延伸によるアクセス向上を見据え、首都圏や関西圏、中京圏等域外からの需要を取り込むなど、県内企業の国内外への販路開拓を積極的に進めます。

主な取組み

(1) 販路開拓への支援

- ・ 創業・ベンチャー、新商品・新サービス開発、事業承継などへの事業資金や販路開拓等の支援
- ・ 伝統産業分野における商品開発によるブランド力向上、販路開拓等への支援
- ・ 首都圏、関西圏、中京圏等や北陸新幹線沿線地域との商談会開催による商取引の促進
- ・ 県外、国外の見本市等への出展や、市場調査、海外マーケティング活動等への支援
- ・ 販路開拓マネージャーによる首都圏、関西圏、中京圏等企業に対するマッチング支援
- ・ 富山県海外販路開拓サポートデスク等による海外販路開拓の総合的な支援
- ・ (公財)富山県新世紀産業機構における販路開拓支援体制の強化



自動車関連企業での展示商談会



T-Messe2019

(2) ものづくり技術の情報発信の強化

- ・ T-Messe（富山県ものづくり総合見本市）開催による県内企業のものづくり技術の発信

(3) デザインによる高付加価値化

- ・ デザインを活用した魅力的な商品開発、クリエイティブ産業の振興
- ・ 「クリエイティブ・デザイン・ハブ」を核とした、デザインと先端技術の融合による新商品開発の推進



クリエイティブ・デザイン・ハブ

3 魅力的な企業立地環境の整備

北陸新幹線のほか、高速道路、港湾、空港などの交通基盤の整備促進、研究開発機能の集積など、魅力的な立地環境の整備を行います。

主な取組み

(1) 陸・海・空の交通・物流ネットワークの整備

○ 広域道路網の整備

- ・ 東海北陸自動車道の早期全線4車線化及び付加車線の整備促進※
- ・ 能越自動車道の早期全線開通※
- ・ 富山高山連絡道路や高岡環状道路等の地域高規格道路の整備※
- ・ 上市スマートICや（仮称）城端SAスマートIC※等の追加ICの設置



東海北陸自動車道
(五箇山IC付近)

○ 伏木富山港の機能強化

- ・ 国際物流ターミナルの岸壁延伸や新湊地区中央岸壁の大水深化など、大型船舶に対応した施設整備※
- ・ 国際定期コンテナ航路の充実
- ・ 交通立地の優位性やインセンティブを活用した県内外からの集荷促進
- ・ シベリア鉄道を活用した物流ルートの利便性向上



伏木富山港（富山地区）
RORO 船への積込状況

○ 富山きときと空港のネットワークの充実や利用促進

- ・ 羽田便をはじめとした既存定期便の路線の充実
- ・ 関西、九州・沖縄など西日本方面や、東南アジア方面などへの新規路線開設に向けたチャーター便の運航支援
- ・ 運航支援会社など関係者への働きかけにより、ビジネスジェットの利用拡大を促進
- ・ 羽田乗継便のPRなどエアポートセールスの実施、空港へのアクセス向上、イベント開催などによる空港の利用促進



富山きときと空港

(2) 企業支援体制の整備

- ・ 工業団地や工業用水、情報通信網の整備、試験研究機関、産学官連携による企業支援体制の整備

4 成長分野の企業、本社機能・研究開発拠点の誘致

日本海側屈指の工業集積や少ない自然災害、充実した交通・物流ネットワークなど、本県の魅力的で安全・安心な立地環境をPRし、優れた技術を持った成長性の高い企業を重点としたトップセールスによる企業立地を推進します。

主な取組み

(1) 積極的な企業誘致活動の展開

- ・ 優れた技術を持った成長性の高い企業や、ものづくりの基盤の裾野が広がる企業の誘致推進
- ・ 若者や女性の雇用につながる企業の誘致（本社機能、研究開発拠点、オフィス系等）
- ・ 富山県の強みを活かした成長産業のさらなる集積
- ・ 都市部企業等のサテライトオフィス（企業・団体の本拠から離れた所に設置されるオフィス）の誘致
- ・ 首都圏、関西圏、中京圏等での企業立地セミナーの開催などトップセールスの充実



とやま企業立地セミナー

(2) 立地企業に対する総合的な支援

- ・ 新規立地や規模拡大、物流機能の強化への支援など、ニーズに対応した助成制度等の整備
- ・ 企業間連携（コンソーシアム）による事業化の推進



プレステージ・インターナショナル
大規模コールセンター「BPO タウン」
（仕事と子育ての両立支援）

基本戦略3 選ばれ続ける観光地づくり ー海のあるスイスを目指してー

(取組み方向)

富山ならではの魅力ある観光資源をさらに磨き上げ、戦略的に発信していくことにより、国内外の旅行者が繰り返し訪れ滞在する「選ばれ続ける観光地」づくりを進めます。

(重点的取組み)

1 戦略的な観光地域づくり

観光マーケティング等に基づく戦略的な観光地域づくりを進めるとともに、旅行者に「また来たい」と感じてもらえる観光地となるため、観光人材の育成や旅行者の受入環境整備、事業者・県民のおもてなし意識の向上等に取り組めます。

主な取組み

(1) 戦略的な観光地域づくりの体制整備（日本版DMO）

- ・ （公社）とやま観光推進機構を中心とした旅行者データの収集・分析
- ・ 市町村や事業者等とのタイアップによる着地型旅行商品の開発促進、富山ならではの観光素材の掘り起し・磨き上げ
- ・ マーケティングデータに基づく戦略的な観光プロモーションの展開

(2) グローバル化に対応した次世代の観光を担う人づくり

- ・ 増加する外国人旅行者の多様なニーズに対応できる観光ガイドや着地型ツアーの企画・運営に携わる人材の育成



とやま観光未来創造塾
認定ガイド実技試験

(3) 地域の観光を支える人づくり

- ・ 満足度の高い観光ガイドや魅力ある観光地域づくりをリードする人材、きめ細かなサービスを提供できるおもてなしタクシードライバーの育成

(4) 観光の担い手としての事業者・県民の意識醸成

- ・ 観光事業者や県民のおもてなし意識の向上、旅行者の満足度を高める多様なおもてなしの取組み促進
- ・ 観光客の滞在時間、消費額の増進に繋がる新たな観光ビジネスへのチャレンジ支援



おもてなし優良タクシードライバー
養成研修

2 広域観光の拠点化

広域観光案内所での多言語対応など受入体制の充実を図るほか、北陸新幹線駅や空港と観光地を結ぶ二次交通の整備・利便性向上、広域観光の拠点となる交通結節点周辺の賑わい創出や魅力向上を促進し、旅行者の滞在時間増加を図ります。

主な取組み

(1) 広域観光ハブ（交通結節点）を活かした拠点整備

- ・ 新幹線駅等における観光案内所の多言語対応や着地型ツアー商品販売等の機能充実
- ・ 観光案内所等における県内及び周辺地域の観光情報の共有促進



多言語に対応した観光案内所

(2) 新幹線駅・空港と観光地を結ぶ二次交通の整備・利便性向上

- ・ 新幹線駅等と飛越能地域の観光地を結ぶ観光路線バスやツアーバスの運行促進
- ・ 新幹線駅から並行在来線駅や県内観光地等へのアクセス向上
- ・ 旅行者に携帯端末やサイネージで路線バスの運行情報等を案内する「とやまロケーションシステム」の利用促進



世界遺産バス

(3) 広域観光の拠点としての賑わい創出・魅力向上

- ・ 富岩運河環水公園を中心とした富山駅周辺地区での四季折々のイベント開催等による通年での賑わい創出、魅力向上
- ・ 環水公園、富岩水上ラインや周辺の飲食店等の相互利用を促進する旅行商品の造成



富岩水上ライン

3 富山らしい魅力創出

「立山黒部」「富山湾」など富山ならではの観光資源の磨き上げをさらに進めるとともに、四季折々の豊かな自然・食・文化など上質なライフスタイルを体験できる観光商品づくりや、産業観光をはじめとした多彩なツーリズムの展開を図ります。

主な取組み

(1) 「立山黒部」の世界ブランド化に向けた取組みの推進

- ・ 自然環境保全に配慮したロープウェイ整備※や称名滝へのアクセス向上
- ・ 黒部ルート的一般開放・旅行商品化※
- ・ 立山黒部エリアの滞在周遊の促進に向けた魅力向上や情報発信
- ・ 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消※



上部専用軌道

(2) 「世界で最も美しい富山湾」の活用と保全

- ・ 富山湾岸サイクリングコースの整備などサイクリング環境の充実
- ・ モニターツアーの実施やレンタルボートの運用等による新湊マリーナへの県外船舶オーナーの誘致促進



富山湾岸サイクリング2019

- ・ 誘致活動や助成制度の充実によるクルーズ客船の寄港促進
- ・ 「世界で最も美しい湾クラブ」のネットワークや国内の加盟湾との連携による富山湾の魅力発信



世界で最も美しい湾クラブ
世界総会 in 富山

(3) 産業観光、ロケ地、スポーツ等多様なツーリズムの展開

- ・ ものづくり県としての強みや農林水産業の特色、歴史ある伝統工芸などの魅力を活かした見学コースの整備、効果的な情報発信による産業観光の促進
- ・ 映画やドラマの撮影実績等を活かしたロケツーリズムの促進
- ・ サイクリングやマラソン、マリンスポーツ等のスポーツを楽しむ環境整備の促進
(田園サイクリングコースの延伸など)
- ・ 歴史・芸術文化の観光資源としての活用促進
- ・ 教育旅行の誘致促進に向けた受入体制の整備推進や情報発信



富山県商工会議所連合会
などが発行

4 戦略的なプロモーション

マーケティングに基づく効果的な情報発信や、関係事業者や近隣自治体と連携した観光プロモーションの展開、映画・ドラマ等の制作誘致等に積極的に取り組みます。

主な取組み

(1) ターゲットの特性に応じた効果的な情報発信

- ・ マーケティングに基づく、ターゲットの特性に応じた媒体選定による効果的な情報発信
- ・ 都会の日常では味わえない食・文化など上質な富山のくらしの魅力発信

(2) 交通事業者、大手旅行会社、近隣自治体等と連携したプロモーション

- ・ JRや大手旅行会社等とタイアップした旅行商品の企画、観光物産展等の開催
- ・ JRや近隣自治体等と連携した首都圏・関西圏等での観光プロモーションの展開
- ・ 航空会社等と連携し、富山きとときと空港の国際定期便や羽田乗継による羽田ー富山便を利用したツアールートのパR及びチャーター便の誘致



フランス旅行博でのPR

(3) 映画等の誘致や多様なメディアの活用・連携

- ・ 富山県ロケーションオフィス (TLO) を中心とした映画・ドラマなどの制作誘致・支援の推進
- ・ メディアの招へいや取材の働きかけ、映像コンテンツを活用した情報発信



映画「人生の約束」のロケの様

5 国際観光の推進

新幹線延伸による関西国際空港とのアクセス利便性の向上を見据え、外国人旅行者の国・地域別のニーズや嗜好に合わせた観光ルートの開発や受入・滞在環境の整備を促進するなど、海外からの観光誘客を強化します。

主な取組み

(1) 広域観光周遊ルートの形成促進

- ・ 新ゴールデンルート（北陸新幹線）や昇龍道（東海北陸・能越・北陸自動車道）など複数の都道府県の魅力ある観光資源を組み入れた、広域的な観光周遊ルートの開発・形成



昇龍道プロジェクト

(2) 外国人旅行者の受入環境の整備

- ・ 外国人旅行者の移動・滞在に係る利便性と満足度のさらなる向上
〔観光地、宿泊施設、交通機関等での外国語やピクトグラム（絵文字）による説明・案内の充実など〕
- ・ 外国人向けの着地型ツアーの企画・実施や外国人旅行者への接遇がスムーズに行える人材の育成



「ゴ・エ・ミヨ ガイド北陸2018」

(3) 欧米豪など新規市場からの誘客強化

- ・ 旅行ガイドブックや外国人旅行者向けウェブサイトなどを活用した効果的な情報発信
- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした、首都圏、関西圏等での外国人旅行者向けプロモーションの展開

(4) 東アジア・東南アジアからのリピーター拡大

- ・ 四季折々の観光の魅力、とりわけ雪景色やスキー・雪遊び、温泉、冬の味覚など冬季の魅力発信
- ・ 旅行会社・メディア等の招へいや現地プロモーションの実施



台湾での観光説明会

基本戦略4 移住・定住の促進、応援人口の創出・拡大

(取組み方向)

将来的な移住に向けた裾野を拡大するため、大都市圏との継続的な交流を通じ、様々な形で富山を応援する「応援人口（関係人口）」の創出・拡大を図るとともに、移住・U I J ターンの促進のための取組みを展開します。

(重点的取組み)

1 移住体験機会の拡大、移住者受入体制の強化

富山への移住を考えるきっかけにするため、移住希望者に富山ぐらしを体感できる機会を提供するとともに、移住者の受入れに積極的に取り組む地域への支援等を通じ、県内の移住者受入体制を強化します。

主な取組み

(1) 移住体験機会の拡大

- ・ 北陸新幹線沿線県をはじめ他県との連携による、首都圏や関西圏等の移住希望者をターゲットとしたイベントの開催
- ・ 富山県の仕事と暮らしへの理解を深めてもらう体験ツアーの実施



富山暮らし体験会

(2) 意欲ある地域住民等による移住者の受入促進

- ・ 移住促進に向けた取組みの支援
「移住者受入モデル地域」の拡大、移住者を地域に呼び込むための情報発信、空き家を活用した宿泊体験や地域住民との交流、移住者との交流促進に必要な備品整備など
- ・ 市町村や移住者受入れに意欲的な地域などを対象とした受入体制強化のための研修会等の開催
- ・ 移住者交流会の開催など移住者相互のネットワークづくりの支援
- ・ 移住者や地域住民など、移住者の受け入れ等に賛同する方々を「とやま移住サポーター」として委嘱し、移住後の不安解消など移住者の県内定住を支援
- ・ 県外からの移住者が行う個人の空き家改修について、魅力あるまちづくりの観点から望ましい家屋などに支援
- ・ 旧県職員住宅（富山市蓮町地内）を、高校生によるリノベーションプラン（建築甲子園優勝）をもとに創業支援施設及びU I J ターン者等向け住居に改修し、職住一体となった拠点を整備



移住交流体験施設
「さ、郷ほたる交流館」



創業支援施設等の外観イメージ

2 「くらしたい国、富山」の魅力発信・相談体制の充実

移住希望者の獲得に向け、本県の魅力ある暮らしや自然環境、恵まれた就労環境など「くらしたい国、富山」のイメージ発信を強化するとともに、暮らしと仕事の一元的な相談体制の充実に取り組みます。

主な取組み

(1) 相談体制の強化

- ・ 「富山くらし・しごと支援センター」における仕事と住まいの一元的な相談体制の強化・充実（名古屋オフィスの新設、大阪オフィスの機能拡充など）
- ・ 「富山県人材活躍推進センター」とも連携し、ワンストップで移住・U I Jターナー者の相談を受けるほか、SNSを活用した情報発信など体制を強化

(2) 富山暮らしの魅力発信

- ・ 国の移住支援金・起業支援金制度を最大限活用した東京23区等からの移住促進
- ・ 市町村や県内企業と連携した大規模な移住・転職フェアや、定期的な移住相談会・セミナーの開催など、「くらしたい国、富山」推進本部を中心に、富山県の暮らしの魅力を発信
- ・ 「くらしたい国、富山」推進本部に青年プロジェクトチームを設置し、次世代の富山県を担う若者の発想を活かして、人口減少対策や移住・U I Jターナー促進に向けたプロジェクトを推進
- ・ 富山県の子育て環境の優位性の発信や暮らし体験会の実施など、首都圏等の子育て世代を対象とした移住の促進



移住セミナー

(3) U I J・Tターナー就職の促進

- ・ 就職支援協定締結校など県外大学との連携強化、就職セミナーや合同企業説明会の開催等によるU I Jターナーの促進
- ・ 県内企業への転職・再就職等を目指す女性を対象とした合同企業説明会を開催し、意欲ある女性の就職を促進
- ・ 首都圏の社会人女性と県内企業の女性社員や女性経営者との座談会を開催するなど、女性のUターナー就職や起業を促進
- ・ 産業界と連携し、将来の地域産業の担い手となる学生の奨学金返済を支援し、県内企業への就職の促進
- ・ 富山県インターンシップ推進センターにおいて、県内企業のインターンシップ受入れを支援し、県内外の学生のインターンシップ参加を促進
- ・ 県内大学等に在籍する学生の県内定着を図る「Tターナー」の促進



とやま移住・就職フェア



就活女子応援カフェ

- ・ 大学生とその父母へ県内企業の魅力や富山県の住みやすさ・暮らしやすさをアピールするなど、県内大学生等の県内定着を促進
- ・ 県内企業に対し、積極的な経営展開等を担う人材を首都圏等から紹介し、その確保をサポート

3 応援人口（関係人口）の創出に向けた都市との交流促進

都市住民の地方移住ニーズの高まりをとらえ、将来的な移住・定住につながるよう、首都圏や関西圏など大都市圏との交流や継続的なつながりを持つ機会の提供により、応援人口（関係人口）の創出・拡大を図ります。

主な取組み

(1) 都市との交流拡大

- ・ 農林漁業体験を通じた都市との交流推進や農家等での宿泊に取り組む地域への支援
- ・ 都市住民の田舎暮らし体験を通じた移住促進
- ・ 地域資源の魅力を活かしたグリーンツーリズムの推進
- ・ 都市部の学生の農山漁村でのインターンシップを受入れる地域への支援
- ・ 質の高い学びと楽しみの場を提供する「とやま夏期大学」の開催などによる交流の促進



都市と農村との交流

(2) 応援人口（関係人口）の創出・拡大

- ・ 首都圏、関西圏、中京圏等の大学や高校等からの県内合宿の誘致促進
- ・ 自然、歴史・文化、産業など富山県の魅力を体験・学習できる教育旅行向けの素材やコースの開発、教育旅行の誘致
- ・ 各地の富山県人会や同窓会等との交流促進
- ・ 県内中小企業における、首都圏等の意欲ある副業人材の活用促進
- ・ 移住や二地域居住、副業・兼業を希望する社会人を対象としたフィールドワークの実施
- ・ 県外の大学生等が中山間地域などの地域に入り、住民等との交流などを通じアイデアを政策提言として発表するプログラムの実施
- ・ 首都圏の大学生を対象とするワークショップとインターンシップの実施などにより、県外学生の県内就職と受入企業の新規事業創出を促進
- ・ 中山間地域において、移住者による起業等の取組みを支援
- ・ 県内外の都市住民と農村地域の住民が協同で農村の共同活動や農作業に取り組めるよう、双方のマッチングを促進



世界遺産（相倉集落）での田植え



(3) 地域との継続的なつながりを持つ人材の創出

- ・ 地域の活性化や将来的な移住にもつながるサテライトオフィスの誘致に向け、県・市町村、民間事業者が連携した誘致専門チームの設置や県内進出企業のサテライトオフィス整備を支援
- ・ 県外在住者も対象に、県内で地域課題の解決や地域活性化に資する新たなプロジェクトを実施する事業者の資金調達（クラウドファンディング）を支援

4 コンベンション等の誘致促進

新幹線延伸によるアクセス向上を見据え、学会、学術会議等の各種会議、大会、イベント等のコンベンションのさらなる誘致により、多様な交流を図ります。

主な取組み

(1) 国際会議や大規模コンベンションの誘致強化

- ・ 見本市や海外キーパーソンとの商談会への参加など、国際会議等の関係者からの情報収集による誘致案件の発掘
- ・ 国際会議の専門団体のデータベース活用等により効率的に情報を収集
- ・ 行政、関係事業者及び有識者等からなる「富山県MICE推進協議会」等での情報共有



PIERS 2018
(H30.8富山県で開催)

(2) 富山の特色を活かした戦略的なコンベンション誘致

- ・ 医薬品、ものづくりなど、本県が強みを有する分野の学会・大会等の誘致強化
- ・ コンベンション開催環境の優位性を主催者側の目線に立って継続的に発信

（全国トップレベルの開催支援制度や首都圏等からの優れた交通アクセス、充実したコンベンション施設、恵まれた観光資源など）



2019 PIC/S 総会・セミナー
(R1.11富山県で開催)

(3) 主催者ニーズに配慮した支援制度の充実

- ・ コンベンション主催者のニーズを踏まえた支援制度の充実
- ・ 会議場でのインフォメーションコーナー設置等によるコンベンション参加者の県内滞在をサポート
- ・ 全国唯一のコンベンションタクシー制度のPRや利用促進に向けた制度の充実



(4) 富山の魅力を活かしたユニークベニューやアフターコンベンション等の提案

- ・ 県内のユニークベニュー（歴史的建造物や文化施設などの特別な場所）や温泉地を会場とする会議・レセプションの提案
- ・ 世界に誇る立山黒部アルペンルートや世界遺産五箇山合掌造り集落など、富山ならではの観光資源をエクスカージョンとして提案

第3章 参考資料

1. 北陸新幹線延伸に関する調査の概要

(1) 新幹線延伸に関する県民意識調査

【調査概要】

- ・調査対象：県内に居住する満18歳以上の男女2,000人（回収数（率） 1,548（77.4%））
- ・調査期間：令和元年8月～9月
- ・調査方法：県政世論調査（調査員による留置調査）

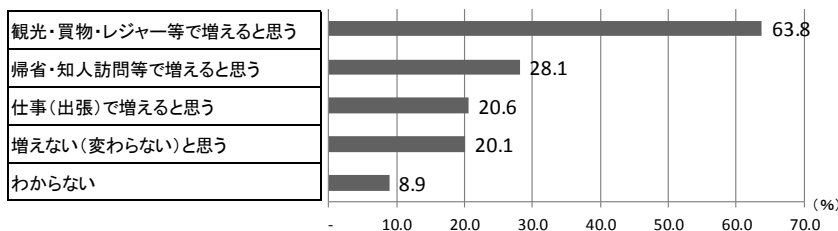
【調査結果の概要】

問 北陸新幹線の敦賀延伸について

1 北陸新幹線の敦賀開業で、関西・中京圏への訪問機会が増えると思うか、について

（複数回答：いくつでも）

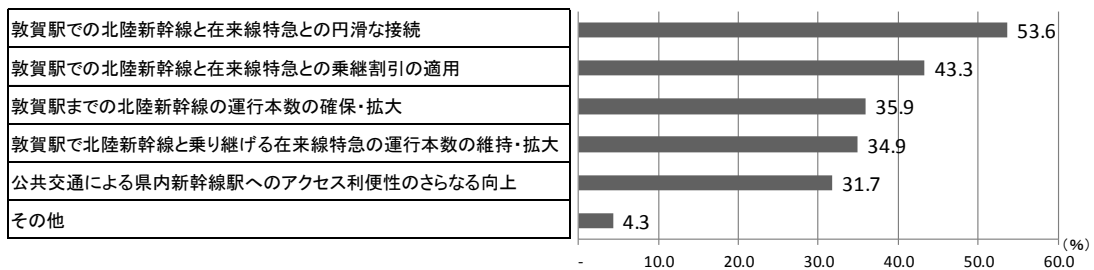
- 『観光・買物・レジャー等が増えると思う』が6割を超え、突出している。



2 北陸新幹線がどのようになれば利用しやすくなると思うか、について

（複数回答：いくつでも）

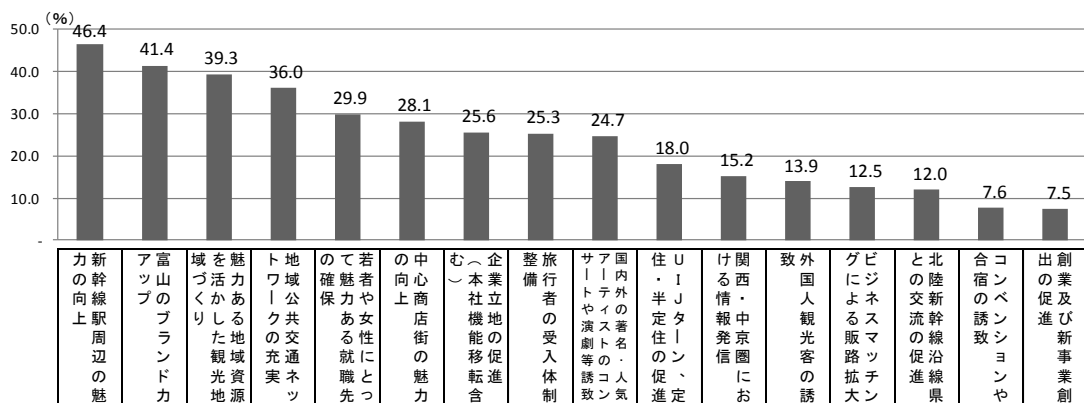
- 『在来線特急との円滑な接続』『在来線特急との乗継割引の適用』が上位となっている。



3 延伸効果を最大限に引き出すために必要な施策は何か、について

（複数回答：5つ以内）

- 『新幹線駅周辺の魅力向上』『富山のブランドカアップ』『魅力ある観光地域づくり』が上位となっている。



(2) 新幹線の開業・延伸効果に関するアンケート調査

【調査概要】

- ・調査対象：県内に事業所を有する観光・交通関連企業、団体等（有効回答 99名）
- ・調査時期：令和元年10月～11月
- ・調査方法：郵送調査（一部、直接ヒアリング）

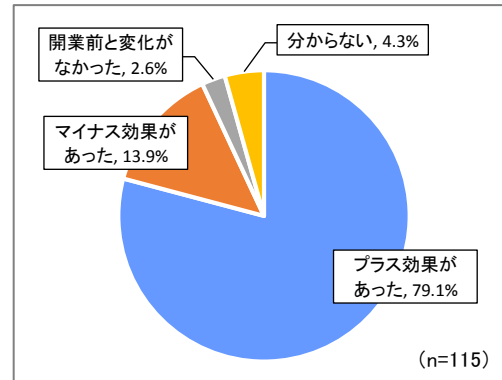
【調査結果の概要】

1 北陸新幹線開業当初の富山県内における開業効果について（複数回答）

～プラスの開業効果があったと思うが約8割～

○79.1%が『プラス効果があった』と回答する一方、『マイナス効果があった』との回答も13.9%あった。

○全体としては、大きなプラスの開業効果があったとの意見が大勢を占めたが、地域間の格差を指摘する意見も見受けられた。



主な意見

(プラス効果)

- ・メディアへの露出により富山県の知名度・イメージが向上した。
- ・首都圏方面からの旅行者が増加した。
- ・首都圏方面との経済交流が活発化した。（商取引の拡大、本社機能の一部移転など）
- ・新幹線駅周辺での民間投資が活発化した。

(マイナス効果)

- ・日帰り客の増加により県内宿泊者数が減少した。
- ・金沢乗換により関西・中京方面への利便性が低下した。
- ・新幹線駅周辺や特定観光地のみが賑わっている。

「マイナス効果があった」回答者の属性

(n=16)

- ・地域別では、①富山、②新川、③砺波、高岡、射水の順に回答が多い。
- ・個別には、立山、八尾・山田、魚津、五箇山など、新幹線駅周辺以外や中山間地域からの回答が目立つ。
- ・分野別では、①産業経済、②観光、③旅行、運輸の順に回答が多い。

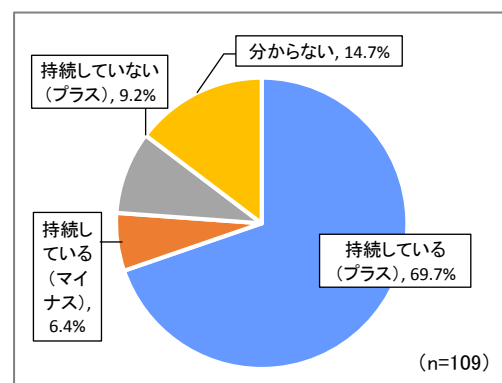
2 開業効果の持続性について（複数回答）

～プラスの開業効果が持続していると思うが約7割～

○69.7%が『プラス効果が持続している』と回答する一方、『わからない』との回答も14.7%あった。

○『プラス効果が持続している』としつつも開業当初に比べて力強さに欠けるとの意見や、14.7%が『わからない』と回答していることから、開業効果の持続の実感が弱含んでいると思われる。

○また、開業効果の県内格差が広がりつつあり、マイナス効果に拍車がかからないような対策が必要との意見もあった。



主な意見

(プラス効果)

- ・インバウンドの伸びが顕著であり、外国人観光客を多く見かけるようになった。
- ・コンベンション件数が引き続き高い水準を維持している。
- ・富山駅周辺の開発がさらに進んでいる。
- ・開業当初ほどではないが、効果は持続している。

「マイナス効果が持続している」回答者の属性

(n=7)

- ・地域別では、①富山、②新川、砺波の順に回答が多い。
- ・個別には、立山、八尾・山田、魚津、五箇山など新幹線駅周辺以外や中山間地域からの回答が目立つ。
- ・分野別では、①観光、②旅行、産業経済の順に回答が多い

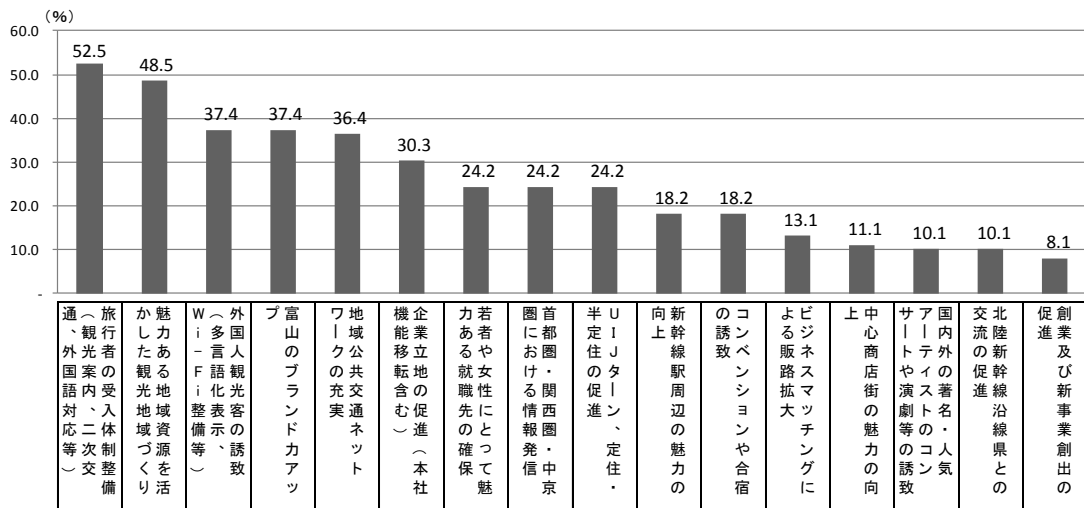
(マイナス効果)

- ・リピーターの獲得が伸び悩んでいる。
- ・観光客の増加は地域によってばらつきがある。
- ・開業効果の県内格差が広がりつつあり、マイナス効果に拍車がかからないような対策が必要。

3 開業・延伸効果を最大限引き出すために必要な施策について（複数回答）

～旅行者の受入体制整備や魅力ある地域資源を活かした観光地域づくりが約5割～

○『旅行者の受入体制整備』『魅力ある地域資源を活かした観光地域づくり』『外国人観光客の誘致』『富山のブランドカアップ』の順に回答割合が高くなっている。



4 開業・延伸効果を最大限引き出すための具体的な取組みについて（自由記述）

○太平洋側の代替機能としての「北陸新幹線の早期全線整備」、広域周遊観光への対応としての「二次交通の充実」や「沿線県との連携協力」といった意見が多く見受けられた。

主な意見

- ・災害対策の側面を強く打ち出し、太平洋側の代替路線である北陸新幹線の早期全線整備を進めるべき。
- ・観光・ビジネスといった側面以上に、太平洋側の代替機能が日本全体のリスク管理上重要。
- ・旅行客の周遊を促進するため、地域公共交通機関の「統一パス」の取組みを進めるべき。
- ・交通ICカードの導入など二次交通の充実やサービスのシームレス化が必要である。
- ・陸・海・空を組み合わせた北陸エリアにおける効率的な周遊ルートを北陸3県が協力して提供すること。
- ・敦賀延伸により観光客は北陸エリアを周遊することになるので、沿線3県で連携して誘客を促進すべき。
- ・女性が希望する職場を確保するため、本社機能の移転や研究開発部門、商品開発・マーケティングなどの企画部門の誘致に力をいれるべき。
- ・県出身の芸能人やスポーツ選手等をもっと活用し、新たなブランディングイメージ、キャッチフレーズ、キャラクターなどを考えてはどうか。
- ・富山湾鮎の更なるPRのため、駅周辺のビルに鮎屋を集めるなどしてはどうか。

(3) 新幹線延伸に関する関西圏、首都圏等住民に対する意識調査

【調査概要】

- ・調査対象：①福井県・関西圏住民（有効回答 2,555名）
（福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）
②首都圏住民（有効回答 3,435名）
（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県）
- ・調査時期：令和元年11月
- ・調査方法：インターネット調査（調査機関のアンケート会員から抽出）

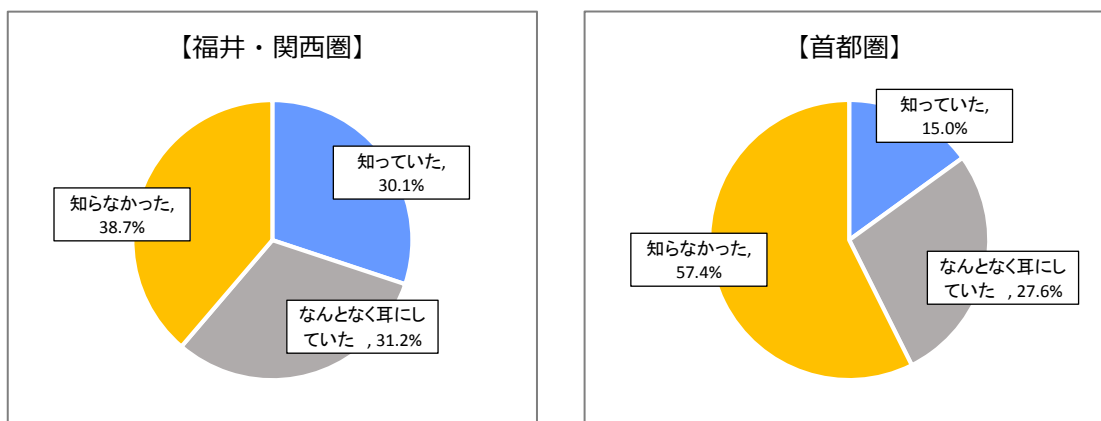
【調査結果の概要】

1 北陸新幹線の認知度や北陸・信濃方面への訪問意向等について

① 北陸新幹線の敦賀開業（2022年度末予定）の認知度

～「福井県・関西圏」での認知度は6割以上～

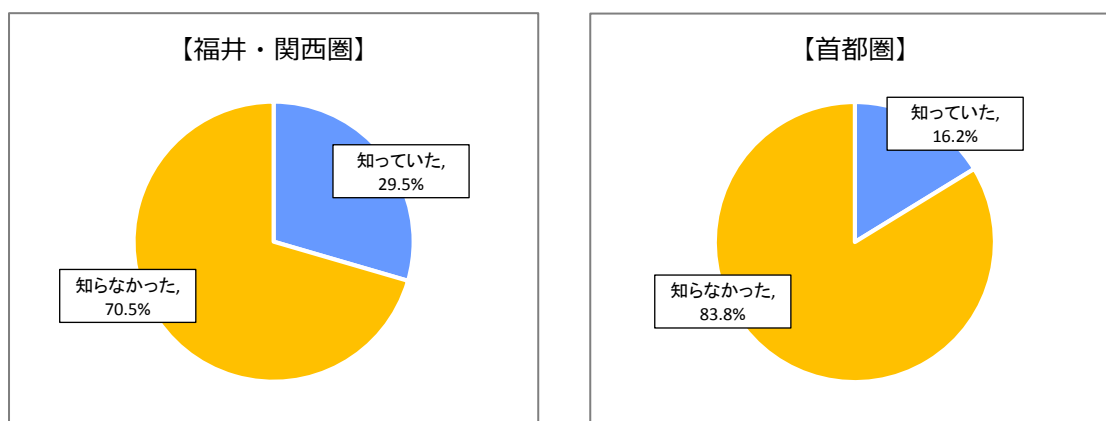
- 「福井県・関西圏」では、『知っていた』と『なんとなく耳にしていた』を合わせた認知度は61.3%となっており、「首都圏」の42.6%を18.7ポイント上回っている。



② 北陸新幹線の敦賀開業による新大阪－富山間の所要時間の認知度

～「福井・関西圏」での認知度は約3割～

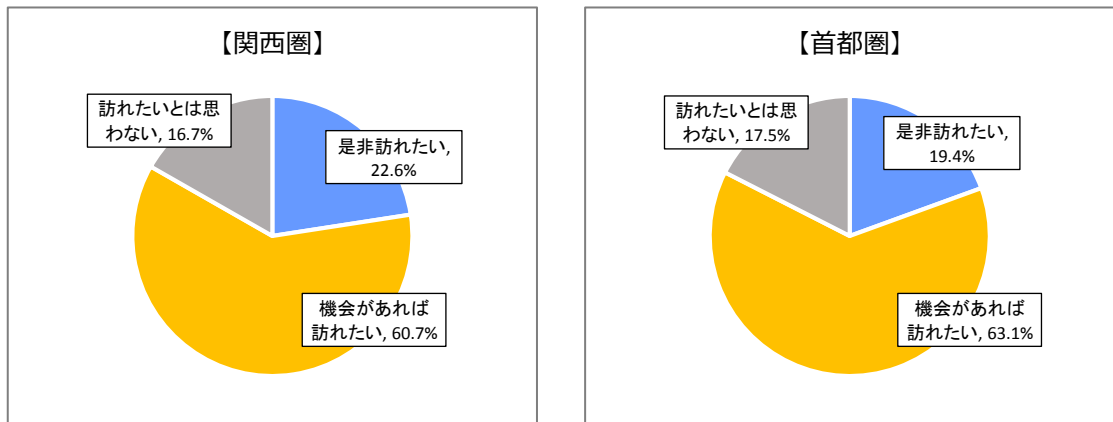
- 北陸新幹線の敦賀開業により新大阪－富山間が約2時間30分で結ばれることについて、『知っていた』と回答した人は「福井・関西圏」では29.5%となっており、「首都圏」の16.2%を13.3ポイント上回っている。



③ 北陸新幹線の敦賀開業後の北陸・信濃方面への訪問意向

～北陸・信濃方面への訪問意向は「関西圏」「首都圏」ともに8割以上～

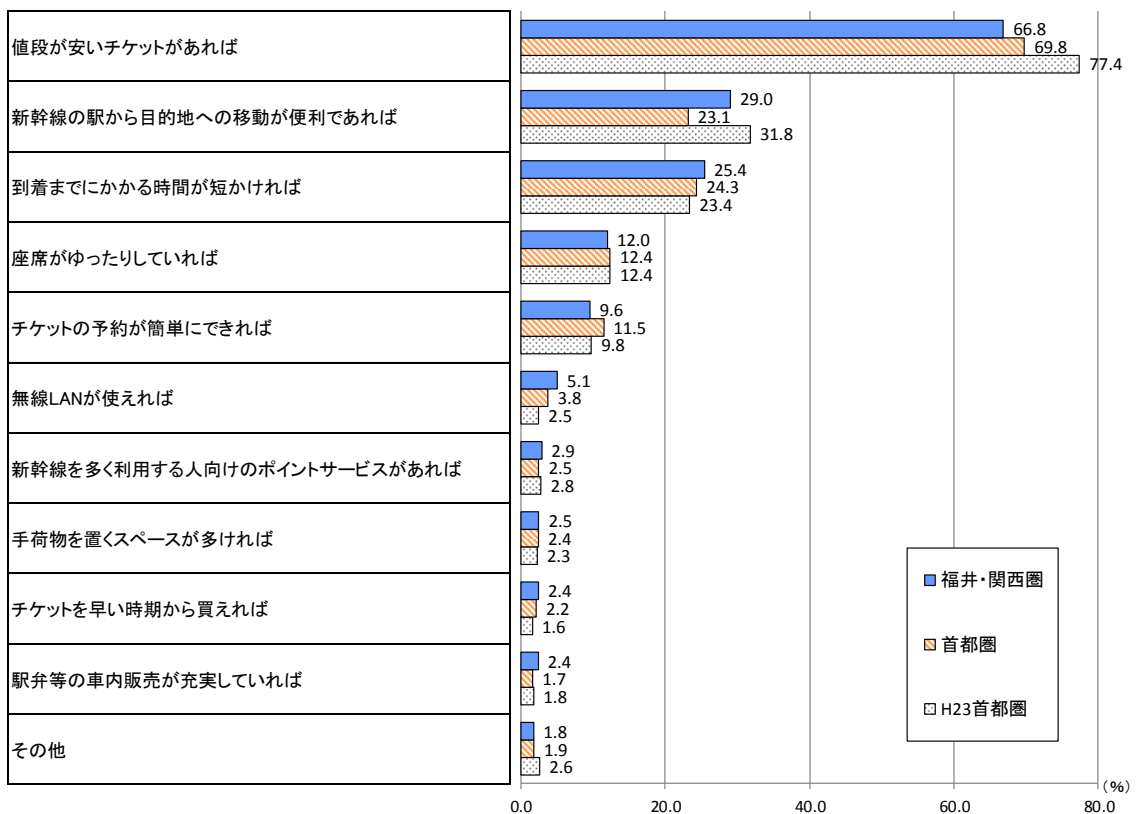
○北陸新幹線の敦賀開業後の北陸・信濃方面への訪問意向は、『是非訪れたい』と『機会があれば訪れたい』を合わせると、「関西圏」で83.3%、「首都圏」で82.5%となっている。



④ 北陸新幹線に望まれているもの（複数回答：2つ以内）

～「福井・関西圏」「首都圏」ともに値段が安いチケットを望む声が多い～

○北陸新幹線がどのようになれば利用しやすくなるか、2つ以内で回答してもらったところ、「福井・関西圏」「首都圏」ともに『値段が安いチケットがあれば』との回答割合が最も高くなっている。次いで、『新幹線の駅から目的地への移動が便利であれば』、『到着までにかかる時間が短かければ』との回答割合が高くなっている。
○平成23年度に実施した首都圏向けの調査と同様の回答結果となっている。

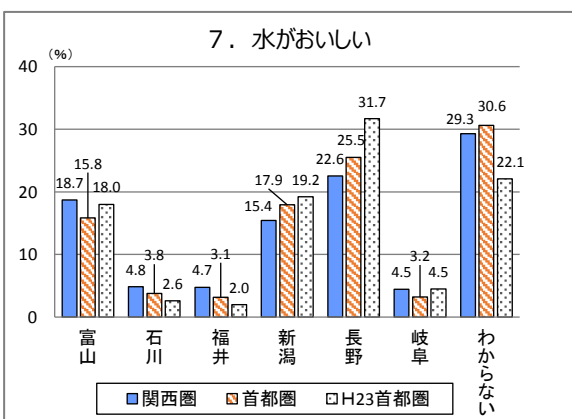
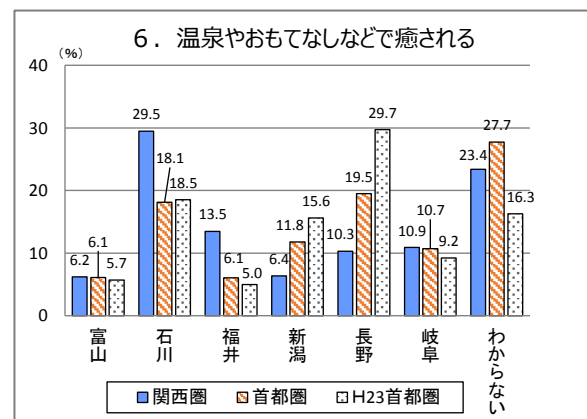
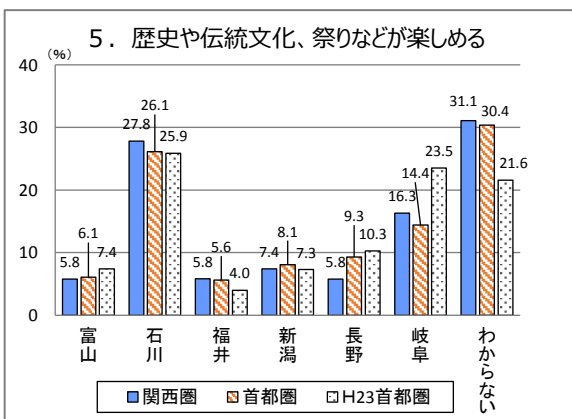
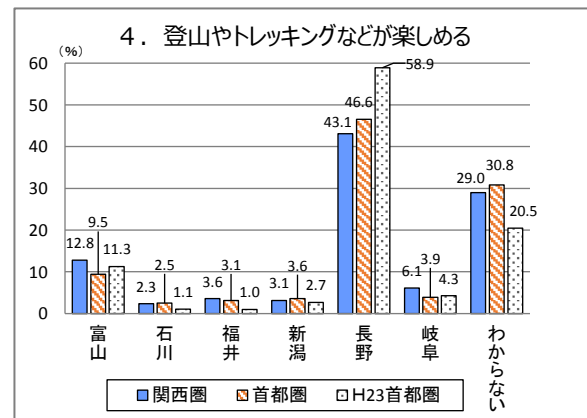
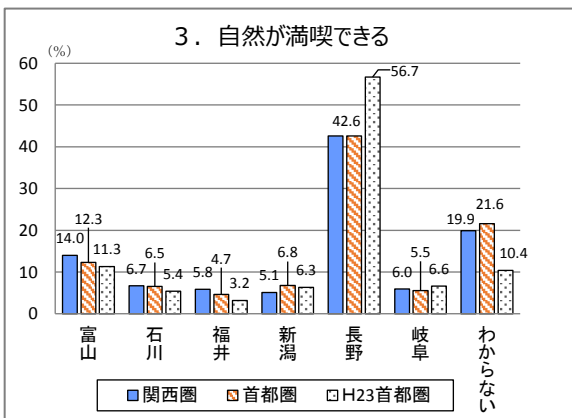
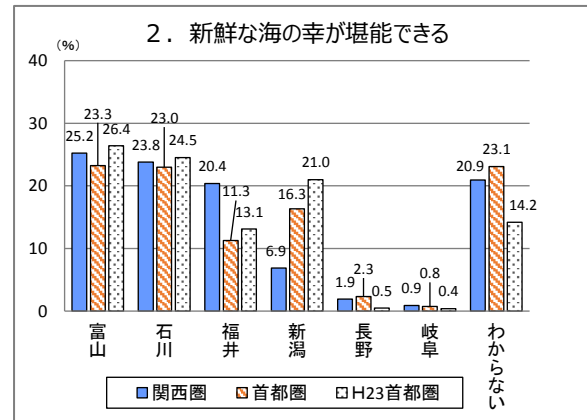
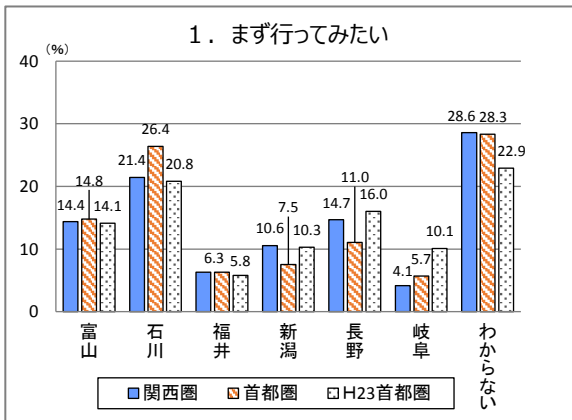


2 富山県、石川県、福井県、新潟県、長野県、岐阜県のイメージについて

～富山県に結び付くイメージは『新鮮な海の幸』や『おいしい水』など～

○富山県に結び付くイメージは「関西圏」「首都圏」ともに『新鮮な海の幸が堪能できる』『水がおいしい』『まず行ってみたい』との回答割合が高くなっている。

○いずれの選択肢についても『わからない』との回答割合も一定程度高くなっている。

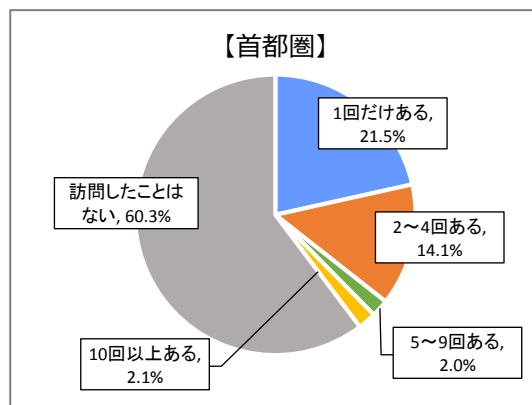
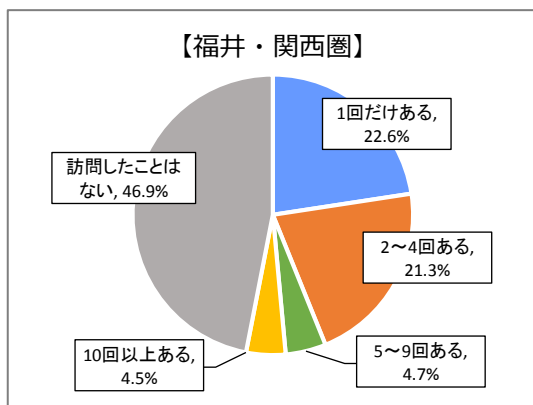


3 富山県への訪問実績等について

① 富山県への訪問実績

～富山県への訪問実績は「福井・関西圏」で5割以上、「首都圏」で約4割～

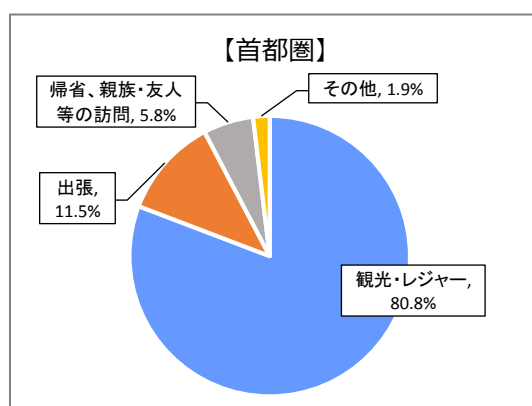
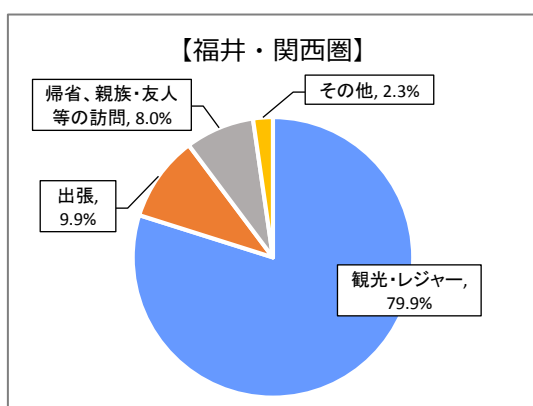
- 富山県への訪問実績は「福井・関西圏」で53.1%、「首都圏」で39.7%となっている。
- 富山県への2回以上の訪問実績でみると、「福井・関西圏」で30.5%となっており、「首都圏」18.2%を12.3ポイント上回っている。



② 富山県を訪問した際の主要な目的

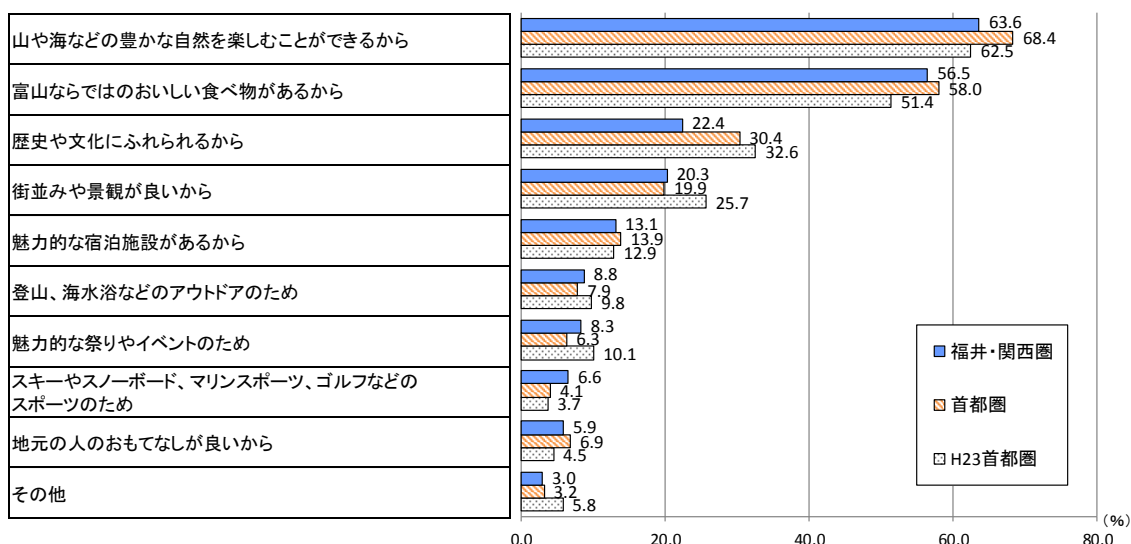
～「福井・関西圏」「首都圏」とも『観光・レジャー』が約8割、次いで『出張』の順～

- 『観光・レジャー』が「福井・関西圏」で79.9%、「首都圏」で80.8%となっている。
- 『出張』が「福井・関西圏」で9.9%、「首都圏」で11.5%となっている



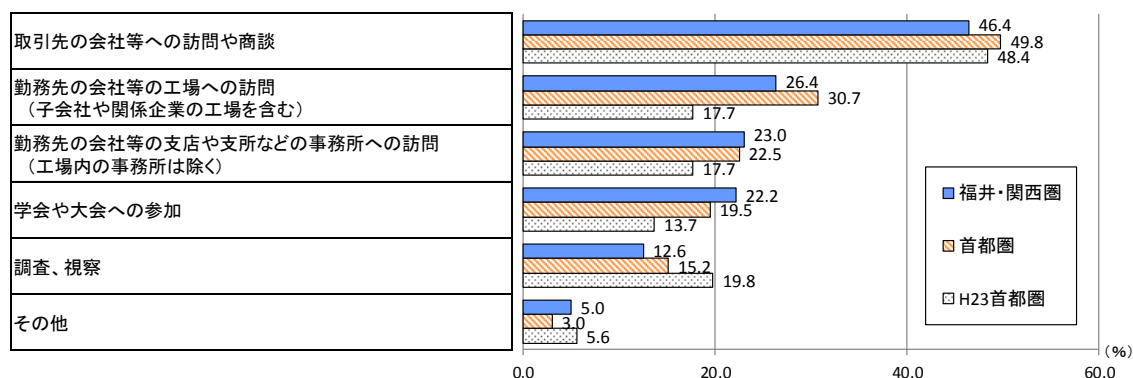
③ 「観光・レジャー」で富山県を訪問した際の具体的な目的（複数回答）

- 「福井・関西圏」「首都圏」とともに、最も回答割合が高かったのは『山や海などの豊かな自然』、次いで『富山ならではの美味しい食』の順となっている。



④ 「出張」で富山県を訪問した際の具体的な目的（複数回答）

- 「福井・関西圏」「首都圏」ともに、最も回答割合が高かったのは『取引先の会社等への訪問や商談』、次いで『勤務先の会社等の工場への訪問』の順となっている。
- 『学会や大会への参加』といった回答も相当数みられた。

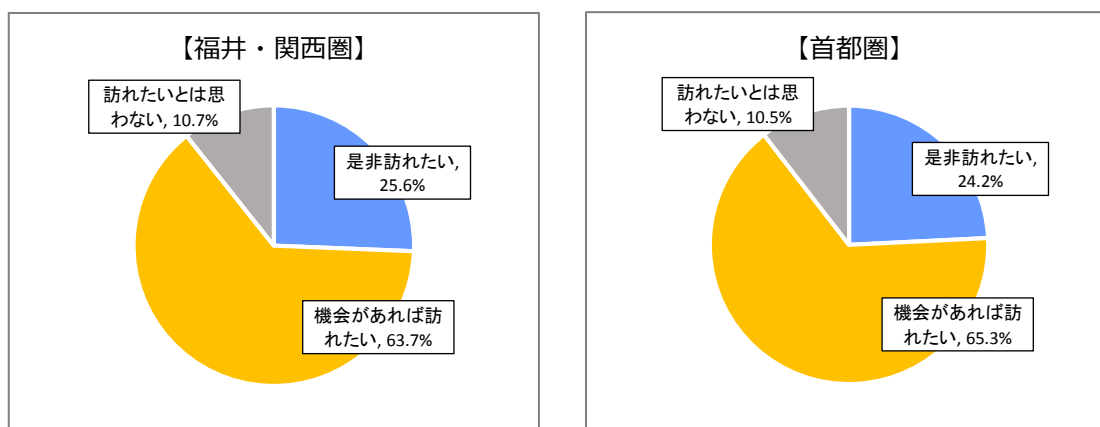


5 今後の富山県への訪問意向等について

① 今後の富山県への訪問意向

～富山県への訪問意向は「福井・関西圏」「首都圏」ともに約9割～

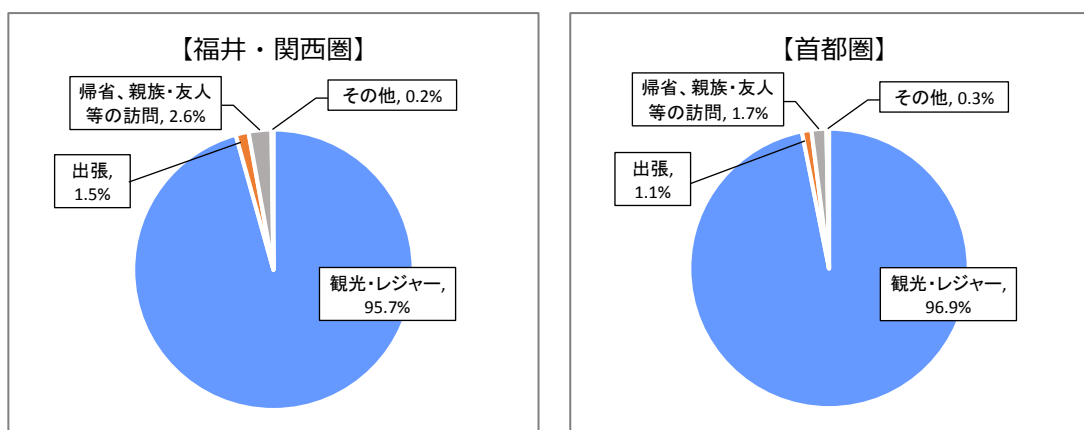
- 富山県への訪問意向は、『是非訪れたい』と『機会があれば訪れたい』を合わせると、「福井・関西圏」で89.3%、「首都圏」で89.5%となっている。



② 今後、どのような目的で富山県を訪問したいか

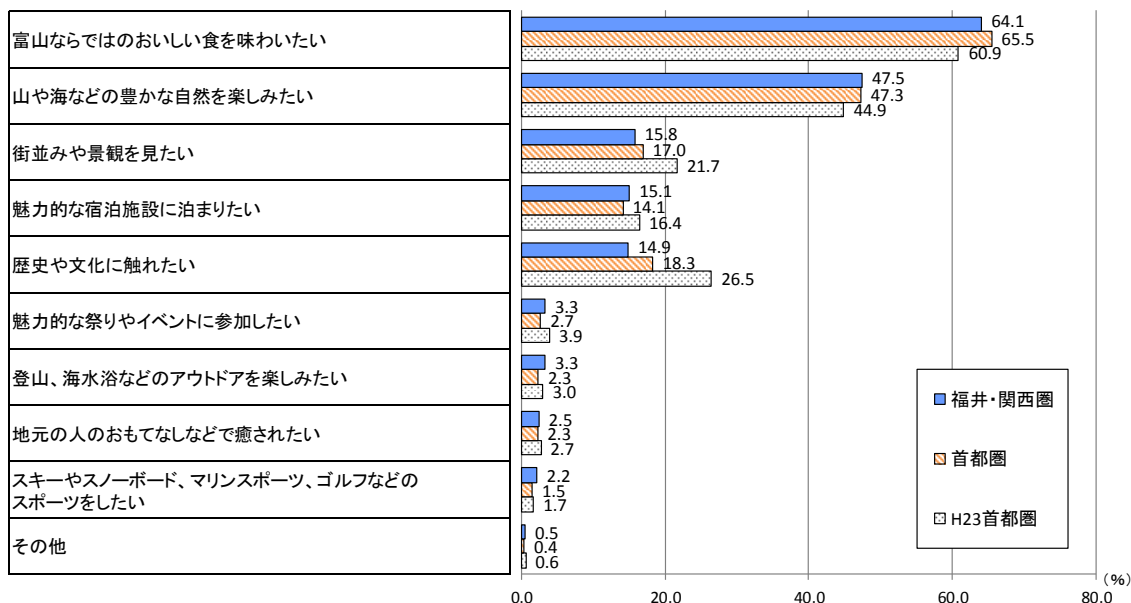
～「関西圏」「首都圏」ともに「観光・レジャー」が9割以上～

- 『観光・レジャー』が「関西圏」で95.7%、「首都圏」で96.9%となっている。



- ③ 今後「観光・レジャー」で富山県を訪問する場合、具体的にどのようなことをしたいか
 (複数回答：2つ以内)
 ～「関西圏」「首都圏」ともに、『富山ならではのおいしい食』や『山や海などの豊かな自然』が人気～

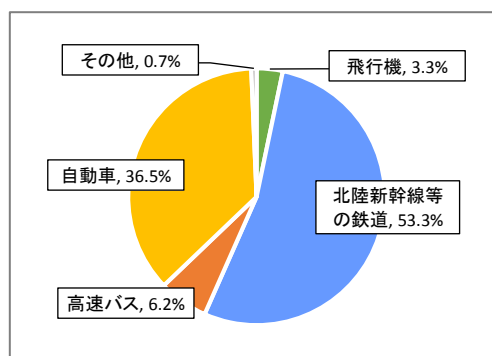
- 「関西圏」「首都圏」ともに、最も回答割合が高かったのは『富山ならではのおいしい食を味わいたい』、次いで『山や海などの豊かな自然を楽しみたい』の順となっている。



5 富山県を訪問する際に使いたい交通手段について (福井・関西圏)

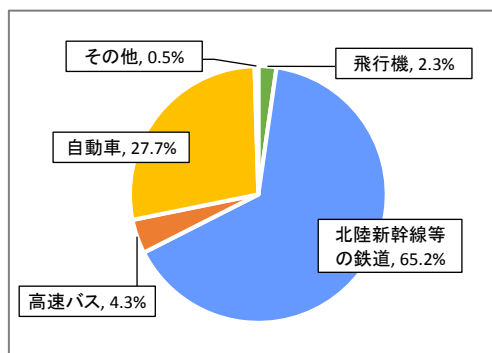
- ① 現時点で、富山県を訪問する際に使いたい交通手段
 ～『北陸新幹線等の鉄道』を使いたいのが5割以上～

- 「福井・関西圏」では『北陸新幹線等の鉄道』との回答割合が53.3%と最も高く、次いで、『自動車』が36.5%となっている。



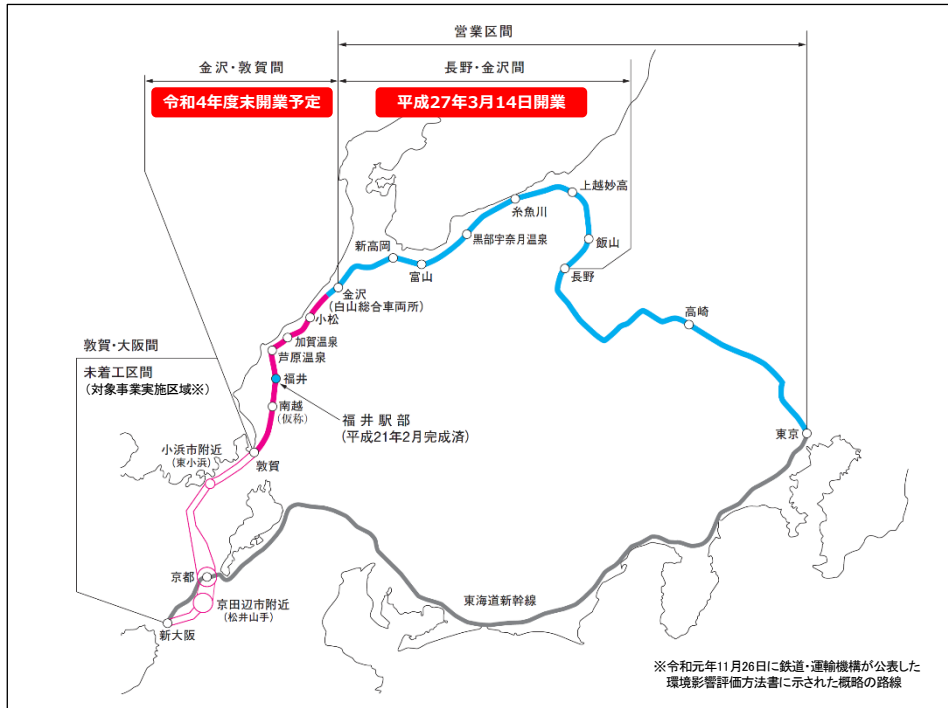
- ② 北陸新幹線の敦賀開業後、富山県を訪問する際に使いたい交通手段
 ～『北陸新幹線等の鉄道』を使いたいのが6割以上～

- 「福井・関西圏」では『北陸新幹線等の鉄道』との回答割合が65.2%と最も高く、次いで、『自動車』が27.2%となっている。



2. 北陸新幹線の富山開業について

(1) ルート図



(2) 富山開業の概要

□ 時間短縮効果

【富山～東京間】

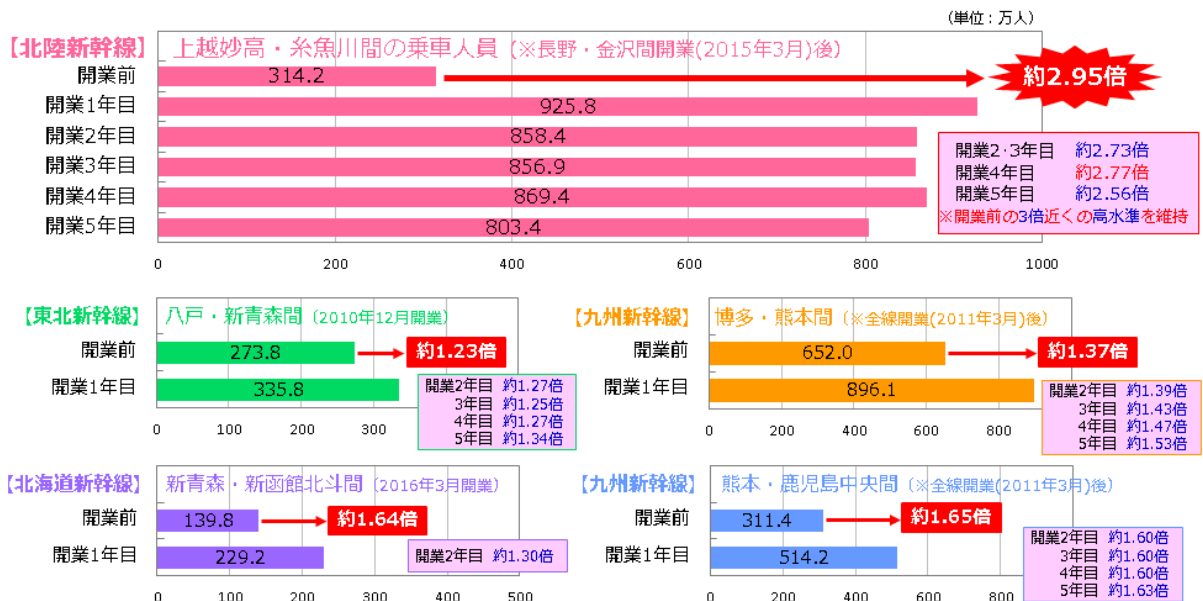
(開業前) 3時間11分 <特急-(乗換)-上越新幹線> ⇒ (開業後) 2時間 8分

△約60分短縮

□ 安定性

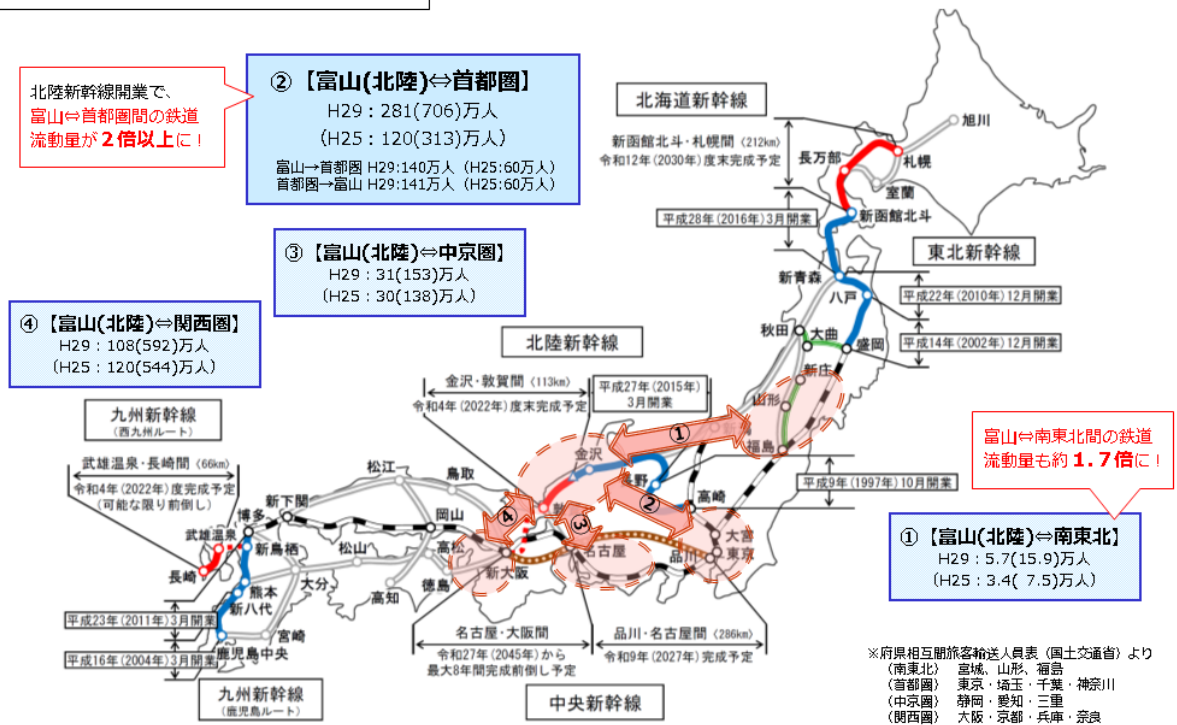
・平成30年2月の大雪時も、在来線が軒並み運休する中、ほぼ通常通りに安定運行。
※北陸新幹線が災害時等に、東海道新幹線の代替機能を果たし得ることを実証。

(3) 利用者数の状況

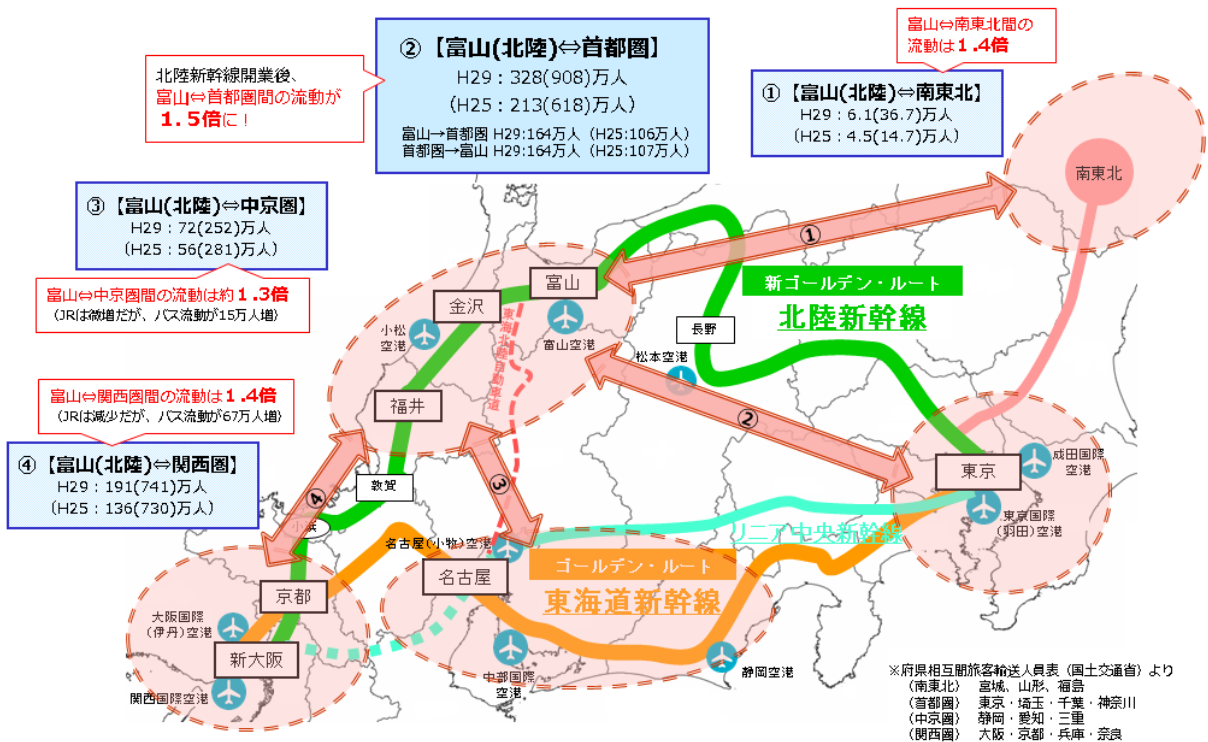


(4) 新幹線開業による流動量の変化

鉄道 (JR) による輸送人員



鉄道 (JR) 、バス、航空機による輸送人員



(5) 新幹線開業による主な効果

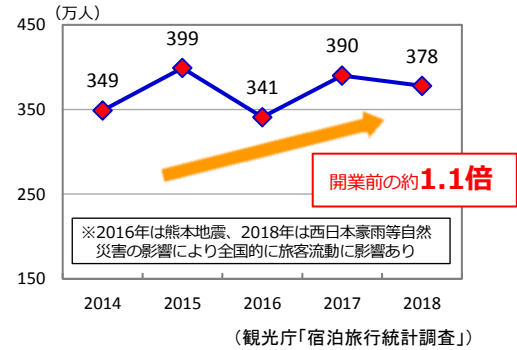
観光面

□ 主要観光地の観光客入込数（上位5カ所）

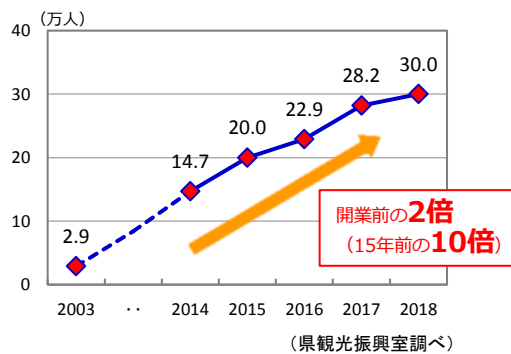
		2014	⇒	2018
1	環水公園	139.0万人		225.6万人
2	ひみ番屋街	114.8万人		120.6万人
3	道の駅福光	99.5万人		111.2万人
4	海王丸パーク	99.0万人		110.3万人
5	立山黒部アルペンルート	90.9万人		98.1万人

(県観光振興室調べ)

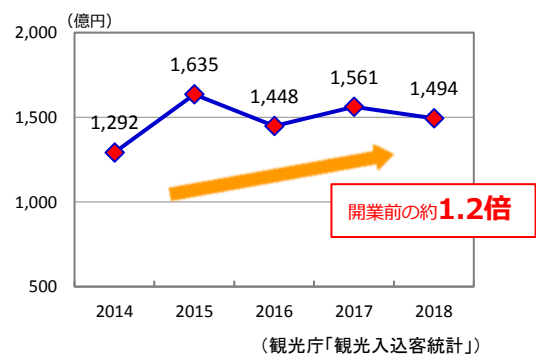
□ 県内延べ宿泊者数



□ 外国人宿泊者数

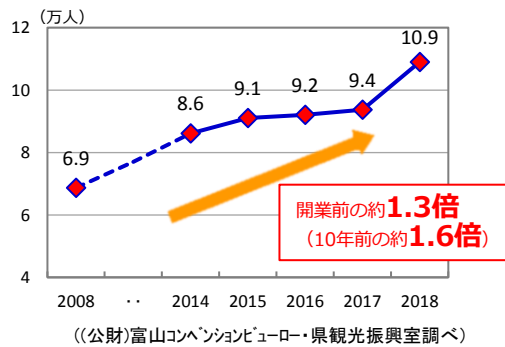


□ 観光消費額

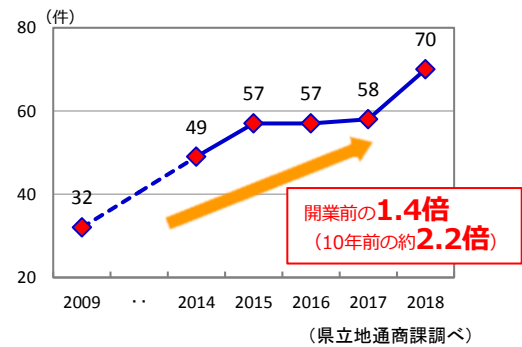


その他

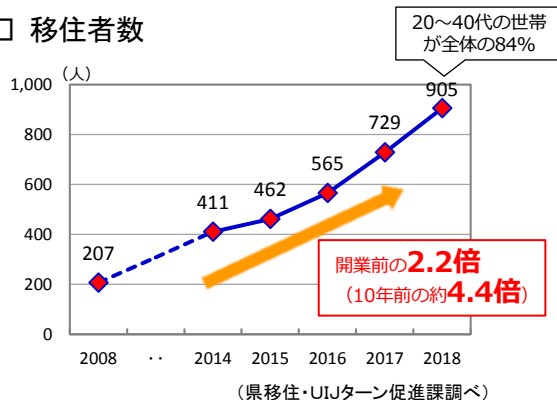
□ コンベンション参加者数



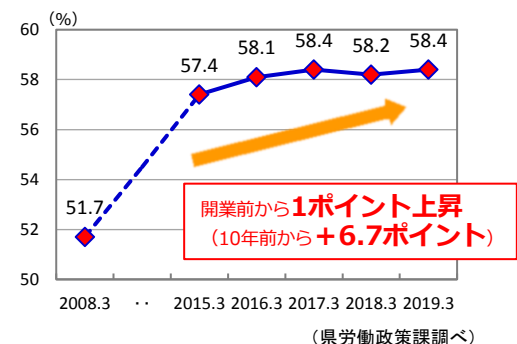
□ 企業立地件数



□ 移住者数



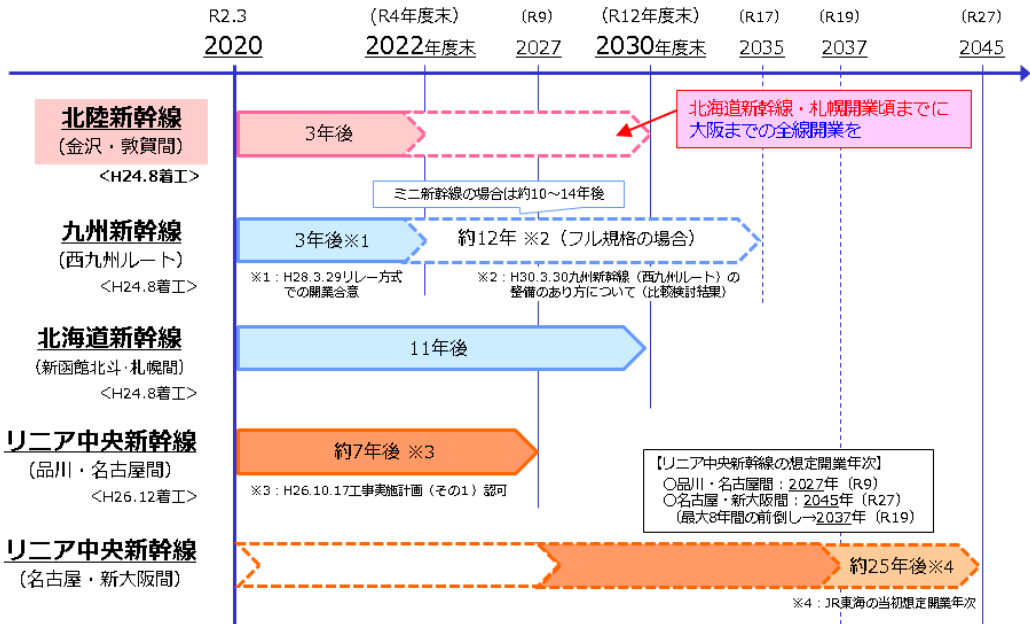
□ 大学卒業者のUターン就職率



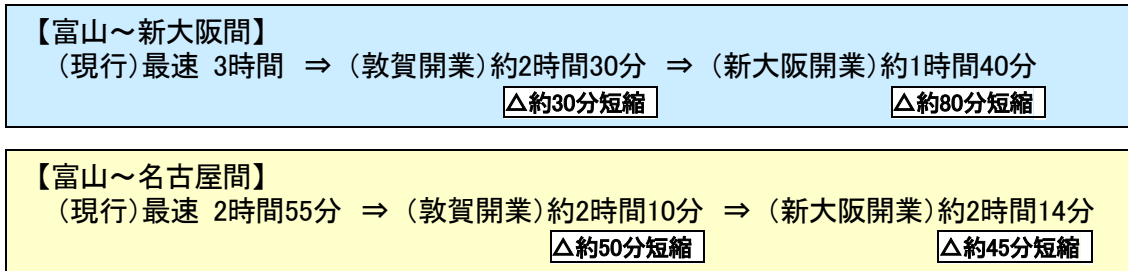
県外転出経験者のUターン率 (2016社人研) 全国2位 (55.3%)

3. 北陸新幹線敦賀・大阪延伸の概要

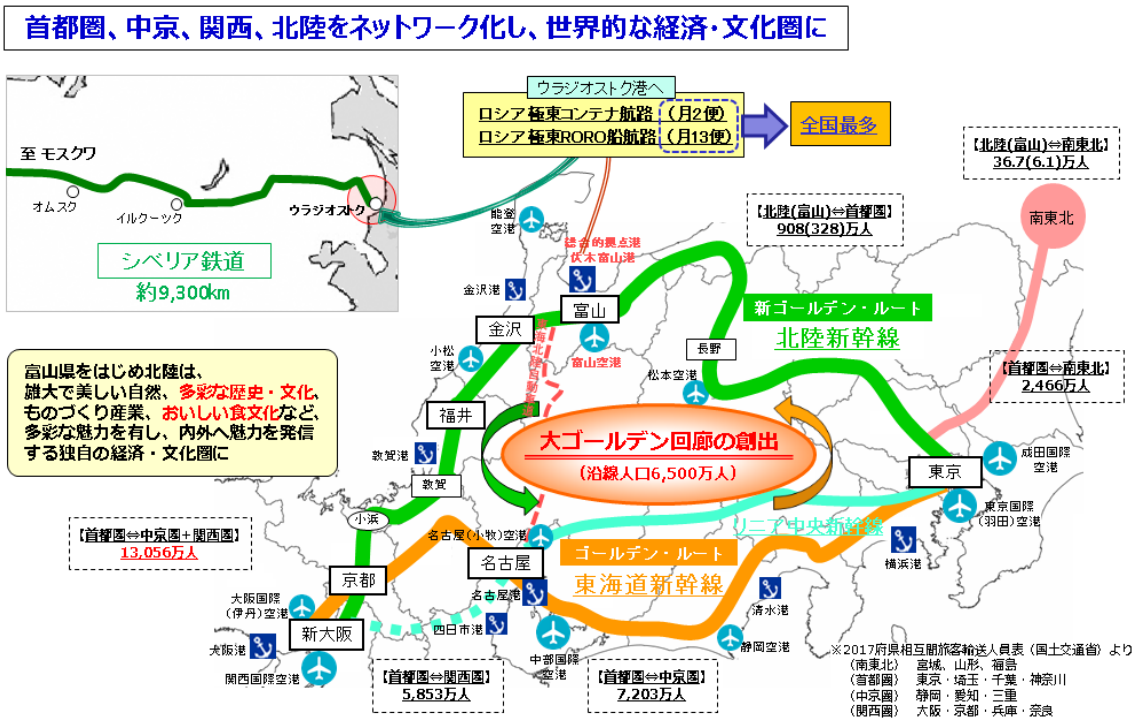
(1) 整備スケジュール



(2) 時間短縮効果



(3) 「新ゴールデンルート」の形成から「大ゴールデン回廊」の創出



4. 北陸新幹線のあゆみ

昭和40年 9月	富山県経済界代表の岩川氏が、北回りの新幹線の建設を佐藤総理に要望
42年12月	北回り新幹線建設促進同盟会結成 (昭和47年 7月 北陸新幹線建設促進同盟会に名称変更)
45年 5月	全国新幹線鉄道整備法公布
47年 6月	基本計画決定
48年11月	整備計画決定
12月	着工凍結 (オイルショックによる景気悪化)
53年 3月	着工凍結の解除 →環境影響調査準備等の実施
57年 9月	再度の着工凍結 (国鉄改革)
61年 3月	富山駅において北陸新幹線駅周辺環境整備事業着手
平成元年 8月	高崎・軽井沢間着工 (フル規格)
2年12月	並行在来線の経営分離が明確化 (政府・与党申合せ)
3年 9月	軽井沢・長野間着工 (フル規格)
平成 4年 8月	石動・金沢間着工 (スーパー特急方式)
5年10月	糸魚川・魚津間着工 (スーパー特急方式)
8年12月	新たな財源スキーム (地方負担1/3) 決定 (政府・与党合意)
9年10月	高崎・長野間開業
10年 3月	長野・上越間着工 (フル規格)
12年12月	長野・富山間 (フル規格) 決定 (政府・与党申合せ)
13年 5月	上越・富山間着工 (フル規格)
16年12月	富山・金沢間 (フル規格) 決定 (政府・与党申合せ)
17年 6月	富山・金沢間 (フル規格) 着工
24年 8月	金沢・敦賀間着工 (フル規格)
27年 3月	長野・金沢間開業
28年12月	敦賀・大阪間のルートが小浜京都ルートに決定
29年 3月	京都・新大阪間のルートが南回りルート (京田辺市・松井山手附近経由) に決まり、北陸新幹線全体のルートが決定

5. 「新幹線延伸戦略検討委員会」委員名簿

(敬称略、50音順)

区分	所属団体名等	氏名	備考
委員	YKK(株)黒部事業所長	浅野 慎一	
	富山県商工会連合会長	石澤 義文	
	富山県農業協同組合中央会長	伊藤 孝邦	
	富山県森林組合連合会長	伊東 尚志	
	とやま起業未来塾長	稲垣 晴彦	
	全日本空輸(株)富山支店長	井上 かおり	
	(公社)日本青年会議所富山ブロック協議会前会長	大西 正起	
	黒部市長(新幹線駅所在市長)	大野 久芳	
	富山県漁業協同組合連合会長	尾山 春枝	
	(一社)富山県経営者協会会長	金岡 克己	
	富山県町村会会長(舟橋村長)	金森 勝雄	
	富山県観光土産品公正取引協議会長	川合 声一	
	黒部商工会議所会頭	川端 康夫	
	高岡商工会議所相談役	川村 人志	
	(公社)とやま観光推進機構マーケティング部長	木村 ともえ	
	富山広告協会顧問	駒澤 信雄	
	富山県商工会議所女性会連合会長	近藤 裕世	
	富山県商工会議所連合会長、(公社)とやま観光推進機構会長	高木 繁雄	委員長
	富山県中小企業団体中央会長	高田 順一	
	高岡市長(新幹線駅所在市長、富山県市長会副会長)	高橋 正樹	
	J A 富山県女性組織協議会長	谷井 悦子	
	富山地方鉄道(株)代表取締役社長、(公社)富山県バス協会会長	辻川 徹	
	富山県タクシー協会会長	土田 英喜	
	(一社)富山県薬業連合会長	中井 敏郎	
	富山大学副学長	中村 和之	副委員長
	(一社)富山県旅行業協会会長	永守 徹	
	砺波市長	夏野 修	
	(株)能作 専務取締役	能作 千春	
	宇奈月温泉かたかご会会長	濱田 昌子	
	(株)OZ Links 代表取締役社長(とやま観光未来創造塾卒塾者)	原井 紗友里	
	あいの風とやま鉄道(株)代表取締役社長	日吉 敏幸	
	(一社)日本旅行業協会中部支部富山地区委員会委員長	平出 昌広	
	西日本旅客鉄道(株)金沢支社長	前田 洋明	
	富山県酒造組合会長	榊田 隆一郎	
	富山経済同友会代表幹事	麦野 英順	
	富山県商工会議所青年部連合会長	村家 幸伸	
魚津市長	村椿 晃		
医療法人社団アルペン会理事長	室谷 ゆかり		
富山市長(新幹線駅所在市長、富山県市長会長)	森 雅志		

(39名)

特別委員	前文化庁長官、多摩美術大学理事長、東京大学名誉教授	青柳 正規	
	北陸経済連合会長	久和 進	
	神戸芸術工科大学教授、東京大学名誉教授	西村 幸夫	

(3名)

6. 策定の経緯

令和元年 8月19日	第1回新幹線延伸戦略検討委員会 ・北陸新幹線の開業効果及び敦賀・大阪への延伸について ・戦略の検討の方向について
8月～9月	新幹線延伸に関する県民意識調査の実施（県政世論調査）
10月～11月	新幹線の開業・延伸効果に関するアンケート調査の実施
11月	新幹線延伸に関する関西圏、首都圏等住民に対する意識調査の実施
12月3日	第2回新幹線延伸戦略検討委員会 ・新幹線延伸に関する県民意識調査について ・新幹線の開業・延伸効果に関するアンケート調査について ・新幹線延伸に関する関西圏、首都圏等住民に対する意識調査について ・「とやま新幹線延伸戦略（仮称）」の素案について
令和2年 2月13日	第3回新幹線延伸戦略検討委員会 ・「とやま新幹線延伸戦略（仮称）」案について
2月～3月	パブリックコメントの実施
3月	戦略の策定・公表